

Team HOPE
ペットのご家族さま
アンケート結果報告書

2024年1月
Team HOPE 広報事務局



調査概要	3
調査結果サマリー	4-7
調査結果詳細	8
0. 回答者（オーナー）の属性	9-10
1. ペットの実態	11-13
2. ペットの健康診断について	14-26
3. ペットの健康寿命を延ばすことについて	27-31
4. 動物病院について	32-35
5. 「ペットの健康診断の日」について	36-37
6. 「猫の健康診断の日」について	38-39
7. 「Team HOPE」について	40-41
8. ペットに関する情報源	42



調査概要



■ 調査目的

この「ペットのご家族様調査」は2016年から毎年継続して実施しており、下記の2点については、現状を把握するとともに時系列での変化を明らかにする。

- ✓ ご家族さまが、ペットの健康維持、予防医療についてどのように考えているか、実際にどのような健診を受けさせているか、ペットの健康管理の意識と実態
- ✓ Team HOPEや「ペットの健康診断の日」の認知状況

■ 調査対象者条件と対象者数

- 犬、猫のご家族さまで、主にペットの面倒を見たり、健康管理をしている人
- 全国、**20歳以上**
- 複数飼っている場合は、**最年長のペット**を対象とする

- 犬のご家族様と猫のご家族様を同数とする。また、最年長のペット年齢7歳未満と7歳以上で均等割付

- **回収有効サンプル 計412名**
 - 犬のご家族さま 206名（最年長の犬の年齢7歳未満103名、7歳以上103名）
 - 猫のご家族さま 206名（最年長の猫の年齢7歳未満103名、7歳以上103名）

■ **調査方法**：web調査

■ **調査期間**：2023年12月13日(水)～2023年12月14日(木)



調査結果サマリー1



1. ペットの実態

- 犬の性別は7歳未満は「雄」のほうがやや多く、7歳以上は雌雄半々。去勢率は7歳未満約7割、7歳以上約6割と7歳未満のほうが多い。避妊率はどちらの年齢も7割を超える。飼育犬種で多いのは、「トイプードル、柴犬、チワワ」など。
- 猫の性別は「雌」のほうがやや多い。去勢率は9割前後、避妊率は9割を超える。飼育猫種をみると「雑種」が約半分。次いで「ミックス」が続く。

2. ペットの健康診断について

- **定期的に健康診断を受診させている割合は5割弱。定期的受診はしていないが健診経験ありは4割弱で、2割弱は未受診。**
 - 「定期的受診」率は、猫より犬のほうが高いが、受診経験ありを加えると、猫7歳未満が最も多い。
 - 時系列で「定期的受診」率をみると、コロナ禍の2020年にやや減少し、その後は3-4ポイントずつ増加したが、今年は横ばい。一方、「定期的ではないが受診経験あり」率が昨年から今年にかけて増えたため、両方を足した受診率自体は昨年から今年にかけて2ポイント増加。
 - オーナー別に「定期的受診」率の昨年から今年にかけての増減をみると、犬7歳未満は横ばいだが、7歳以上では7ポイントの減少。その結果、犬全体では低下している。猫に関しては、7歳未満で5ポイント減少したが、7歳以上では5ポイント増加し、猫全体では横ばいとなった。また、猫7歳未満は、定期的受診率は減ったものの、定期的ではない受診率が増え、受診率自体は昨年より増えている。
- **初めて健康診断を受診したペット年齢は、犬猫とも7歳未満では「0～1歳」が多く7割前後。**
 - ペット年齢7歳以上をみると、10歳以上で初めて健診を受けさせるオーナーも犬では約2割、猫では1割強。
 - ペット年齢の違いによる初受診年齢の差は、ペットを飼い始めた年齢の違いも影響していると考えられる。
- **定期健診の頻度は、年1回程度が57%。**
 - 時系列でみると、年2回以上受診率は2020年以降4割前後で増減を繰り返している。
- **定期健診受診のきっかけは、「健康診断はペットにとって大切だと思っていた」が最も多く5割強。**
 - オーナー属性に関係なくトップは「健康診断はペットにとって大切だと思っていた」。2位は、猫7歳以上以外は「動物病院ですすすめられて」。猫7歳以上は「ペットが歳をとったので」「ペットを病気で亡くした経験があったので」が多い。



調査結果サマリー2



- **受診率が高い健診内容は、「触診、問診」8割強、「視診」7割強、「血液検査」6割強、「聴診」5割強。**
 - 時系列でも、受診内容TOP3は不動。2020年以降年々受診率が増えているのは「血液検査」と「超音波（エコー）検査」。
 - レントゲン検査・尿検査を受診させなかった理由最多は、「獣医師からのすすめがなかった」で5割を超える。2位は「この検査の内容で十分だと思った」があがっているが、犬7歳以上では「検査項目が増えると、費用がかかる」も同率2位。
- **健診で病気・異常が見つかった割合は3割弱。見つかった病気や異常で多いのは泌尿器で約3割。**
 - 犬猫ともに7歳以上で病気・異常が見つかった割合が多く、犬4割、猫3割。
- **健康診断非受診の理由トップは、「今はペットが健康に過ごしているから」で、MA4割強、SA4割弱。なお、「健康診断についてよく知らない」も2割みられる。**
 - 犬猫7歳以上では、「健康診断は費用が高い」も多い。
- **ペットの健康診断については、「お金がかかってもペットの健康のために定期的に受けさせたい」5割弱、一方、「手ごろな価格なら受けさせたい」は約3割。**
 - 時系列でみると、2020年から昨年2022年までは、「お金がかかっても」が増え、「手ごろな価格なら」が減っていたが、今年は、どちらも減少。ただし、「ペットに健康診断は必要ない」は1%にとどまり、犬猫とも7歳以上オーナーでは必要ないとする人は一人もみられなかった。

- 「ペットに健康診断は必要ない」と考えているオーナーはほとんどいないが、受診率が約8割にとどまっている理由としては以下が考えられる。
 - ① ペットが低年齢のうちは、「今は健康だから必要ない、老齢になってからでよい」と先延ばしにする
 - ② 健診費用が負担（犬猫とも7歳以上オーナーで多い）
 - ③ 健康診断はペットがつかう（猫7歳以上オーナーで多め）②の費用に関しては、動物病院選定時の重視点でも、今年は「料金」の比率がアップしている。特に今年受診率が低下した犬7歳以上オーナーは70代比率が高く世帯年収の低い層が多いことから、経済的負担感が受診控えの要因の1つになったと考えられる。
- ペットの健康診断受診率アップのためには、動物病院や獣医師のすすめが有効といえる。また、健康診断の内容に関して、自分のペットにどれが合っているのか、有効な健診は何かを知りたいといったニーズがそれぞれ2割みられること、さらに、健康診断非受診者の2割が「健康診断についてよく知らない」としていることから、健康診断の必要性や内容に関する啓発活動を継続していくことも必要と考える





調査結果サマリー3

3. ペットの健康寿命を延ばすことについて

- ペットの健康寿命を延ばすことは「非常に大切」6割弱、「（非常に+やや）大切」9割。
 - 時系列でみると、「（非常に+やや）大切」の割合は昨年と同率。犬7歳未満以外では増加しているが、犬7歳未満では10ポイントの大幅減。
- 健康寿命を延ばすために「（非常に+やや）心がけている」割合が高いのは、「食事管理」「かかりつけ動物病院を作る」「普段の体調を把握し、異常を早く見つける」がほぼ同率で9割弱。
 - 「非常に心がけている」だけでみると、「かかりつけの動物病院を作る」と「予防接種を受ける」の2項目が約5割と多い。
 - 「予防接種を受ける」に関しては、猫より犬オーナーで「非常に心がけている」割合が高く6割を超える。
 - 時系列でも、（非常に+やや）心がけているTOP3は、この8年間変わらない。昨年から今年の変化をみても大きな増減はないが、「健康診断を1年に1回以上受けさせる」は4ポイント低下している。

4. 動物病院について

- かかりつけ動物病院あり93%。
- 動物病院選定時の重視項目TOP4は、「獣医師やスタッフの人柄の良さ」「診察時の説明がわかりやすいこと」「自宅から近いこと」「気になることがあったら気軽に相談に乗ってもらえること」で、いずれも重視割合が5割を超え、最重視割合15～18%。
 - 重視4項目は時系列やオーナー属性でも変わらず、獣医師やスタッフの親切さ、近いという利便性やわかりやすい説明が重視されている。
 - なお、「料金が低いこと」は昨年より13ポイント増加し、今までの中で最も多い。一方、「設備環境が整っていること」は徐々に低下。今年は、設備環境より料金を重視する傾向が強まった。
- ペットを動物病院へ連れて行く頻度は、「年に2～3回程度」が最も多く約3割、次いで「年に1回程度」が2割強。
 - 犬オーナーのほうが猫オーナーに比べて連れて行く頻度が多めである。





調査結果サマリー4

5. 「ペットの健康診断の日」について

- ・認知率は**11%**。年々微増していたが、今年は微減。
- ・情報源TOP3は「WEBのニュースや記事」「X (旧twitter)」「TV番組」で3割強。
 - ・「TV番組」と「動物病院」は昨年より減少。

6. 「猫の健康診断の日」について

- ・認知率は全体で**25%**。猫オーナーでは約4割。
 - ・2021年以降、徐々に増加。
- ・情報源は、「TV番組」36%、「WEBのニュースや記事」が2割。
 - ・今年追加した「X (旧twitter)」は2割弱で3位。
 - ・昨年より、「TV番組」「WEBのニュースや記事」「動物病院」は減少。

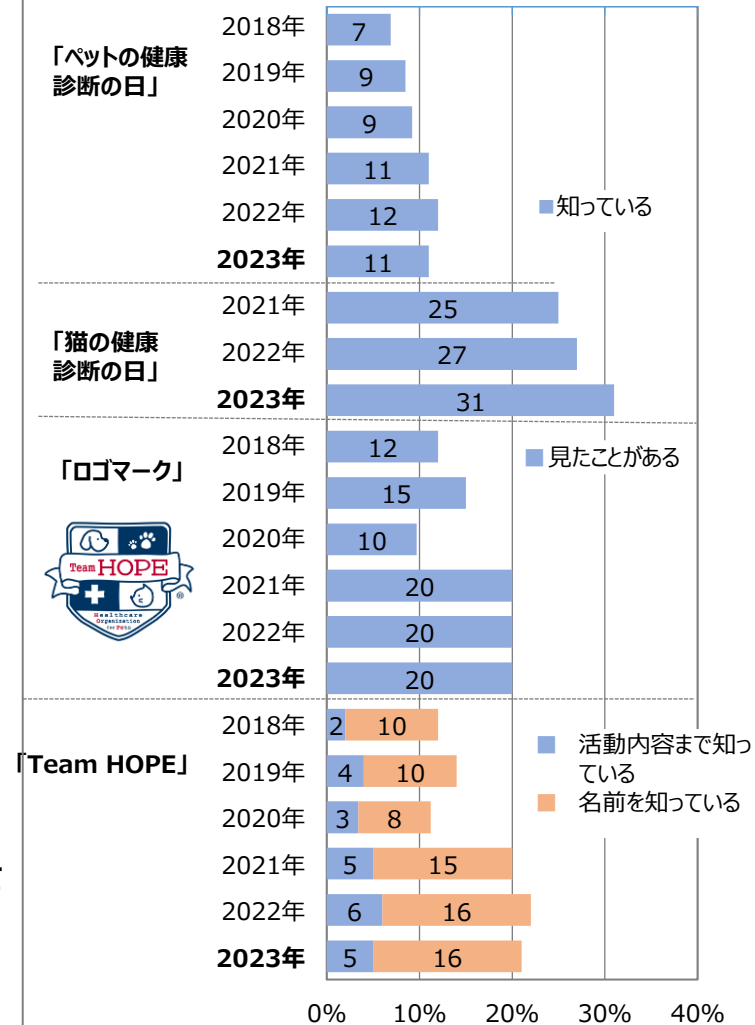
7. 「Team HOPE」について

- ・ロゴマーク認知率**2割**、団体認知率**2割強**。
 - ・いずれに関しても、犬猫とも7歳未満オーナーでの認知率が相対的に高い。
 - ・時系列でみると、この3年はほぼ横ばい。

8. ペットに関する情報源

- ・ペットに関する情報源として最も多いのは「動物病院」で5割強、次いで「ペットを飼っている友人・知人」が3割強、「TV番組」3割弱。
- ・オーナー属性に関わらずTOP2は共通。犬猫とも7歳未満は、3位は「TV番組」と「YouTube」が拮抗。

■ 各種認知状況 (各年全体n=412)





調査結果詳細



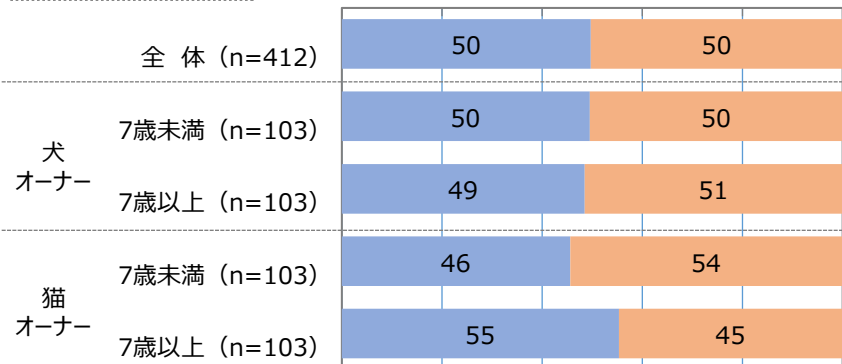


0. 回答者（オーナー）の属性-1

ペット年齢は最年長のペット。以下同様

■ 性別

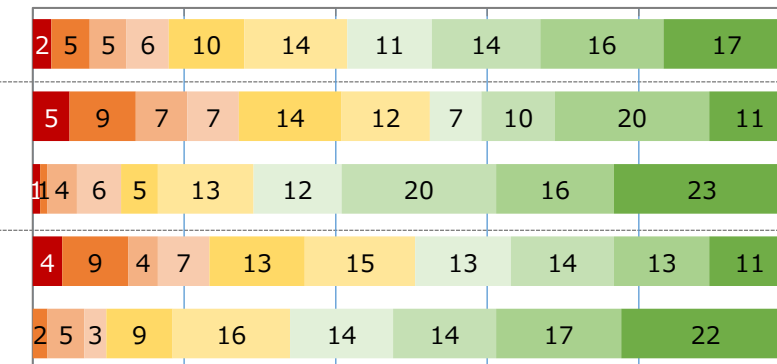
■ 男性 ■ 女性



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 年齢

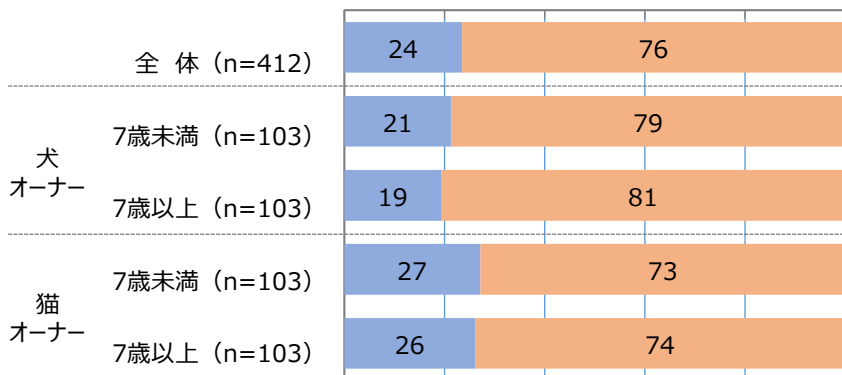
■ 20~24歳 ■ 25~29歳 ■ 30~34歳 ■ 35~39歳 ■ 40~44歳
■ 45~49歳 ■ 50~54歳 ■ 55~59歳 ■ 60代 ■ 70代



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 未既婚

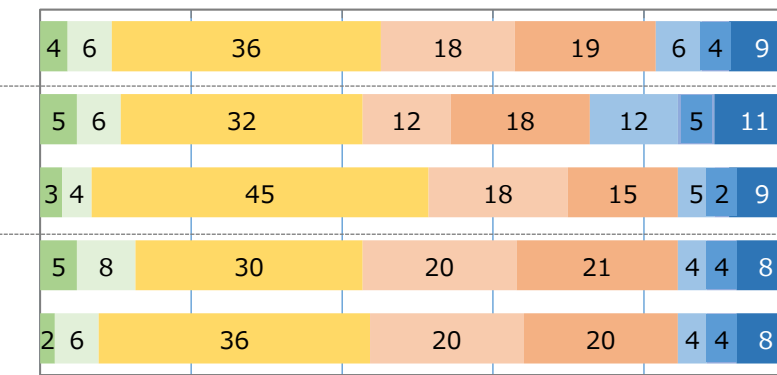
■ 未婚 ■ 既婚



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 居住地域

■ 北海道 ■ 東北地方 ■ 関東地方 ■ 中部地方
■ 近畿地方 ■ 中国地方 ■ 四国地方 ■ 九州地方



0% 20% 40% 60% 80% 100%





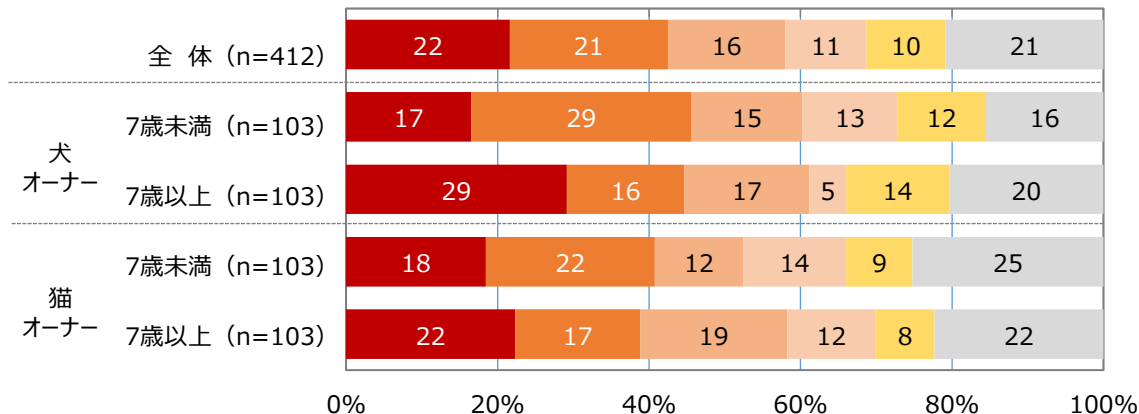
0. 回答者（オーナー）の属性-2

- （前ページ参照）オーナーの年代構成は、70代17%、60代16%、55-59歳14%で、55歳以上で半数弱を占める。
- オーナー別でみると、犬猫とも7歳以上オーナーは、70代比率が2割を超える。
- 世帯年収は、「400万未満」と「400～600万未満」が約2割ずつ。
- 犬7歳以上では「400万未満」が約3割と多い。
- 個人年収は「200万未満」が3割強と多数。
- 犬猫オーナーとも7歳以上は「200万未満」が約4割。

ペット年齢は最年長のペット。以下同様

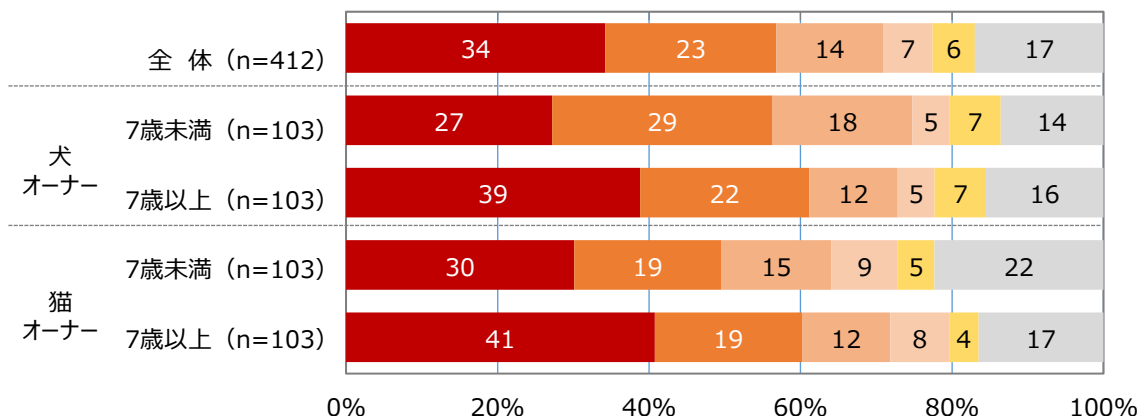
■世帯年収

■ 400万未満 ■ 400～600万未満 ■ 600～800万未満
■ 800～1000万未満 ■ 1000万以上 ■ わからない/不明



■個人年収

■ 200万未満 ■ 200～400万未満 ■ 400～600万未満
■ 600～800万未満 ■ 800万以上 ■ わからない/不明



1. ペットの実態

(1) 最年長（調査対象）ペットの去勢・避妊有無

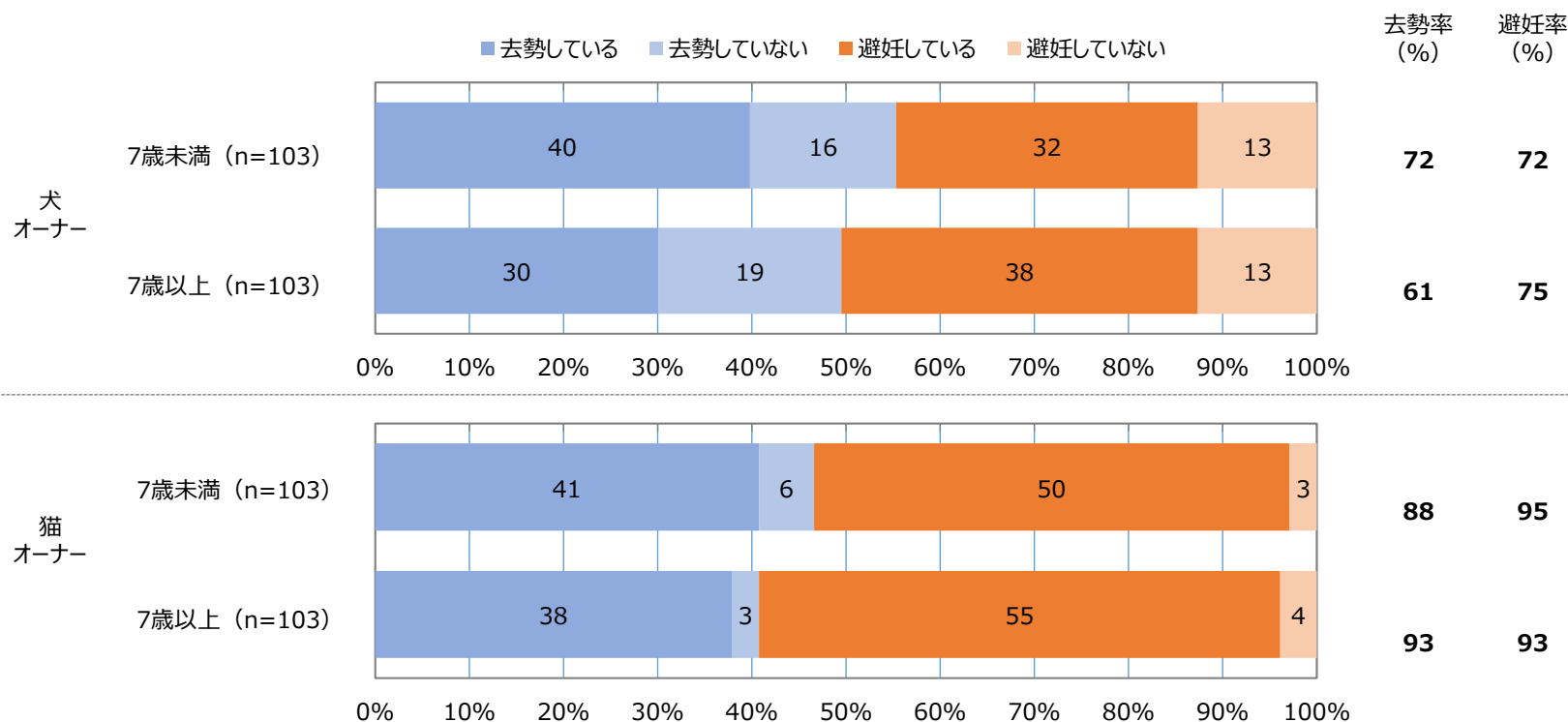


- 最年長ペットの性別をみると、犬は、7歳未満は雄のほうがやや多く、7歳以上は雌雄半々。猫は7歳未満も7歳以上も雌のほうがやや多い。
- 去勢率は、犬では、7歳未満72%で7歳以上61%より高い。猫の去勢率は犬より高く、7歳未満88%、7歳以上では93%。
- 避妊率は、犬では7歳未満72%より7歳以上75%のほうがやや多い。猫の避妊率は犬より高く、7歳未満も7歳以上も9割を超える。

■ 最年長ペットの性別/去勢・避妊の有無（Q1/Q2）

Q1 あなたと一緒に暮らしている犬について性別と去勢・避妊の有無をそれぞれお答えください。

Q2 あなたと一緒に暮らしている猫について性別と去勢・避妊の有無をそれぞれお答えください。





1. ペットの実態

(2) 最年長（調査対象）の犬の種類

- 最年長ペットの犬種は下表の通り。
- トイプードルが最も多く37人（犬オーナー全体の18%）、次いで、柴犬31人（同15%）、チワワ26人（同13%）。

(人)

犬の種類	合計	7歳未満	7歳以上
n =	206	103	103
トイプードル	37	19	18
柴犬	31	16	15
チワワ	26	17	9
ミニチュアダックスフンド	15	6	9
ミックス	13	5	8
雑種	12	6	6
ポメラニアン	7	2	5
シーズー	6	1	5
マルチーズ	5	2	3
カニンヘンダックスフンド	4	3	1
ヨークシャーテリア	4	1	3
ラブラドルレトリバー	3		3
シベリアンハスキー	2	2	
チワプー	2	2	
パグ	2	2	
チワックス	2	1	1
パピヨン	2	1	1

犬の種類	合計	7歳未満	7歳以上
n =	206	103	103
ビーグル	2	1	1
ミニチュアシュナウザー	2	1	1
ミニチュアピンシャー	2		2
NA/不明	6	4	2

<7歳未満：各1人>

- キャバプー
- キャバリア
- ティーカッププードル
- プードル
- フレブル
- フレンチブルドッグ
- ボーダーコリー
- ポメプー
- よーちわ
- 黒柴
- 秋田犬

<7歳以上：各1人>

- イタグレ
- キャバリアキングチャールズスパニエル
- コーギー
- ゴールデンレトリバー
- ジャック・ラッセル・テリア
- ダックスフンド
- フラットコートレトリバー
- ロングコートチワワ
- 日本スピッツ
- 狆



1. ペットの実態

(3) 最年長（調査対象）の猫の種類



- 猫は「雑種」が101人で最も多く、全体の約半分を占める。
- 外国系ではアメリカンショートヘア12人が相対的に多い。
- 日本系では日本猫13人のほか、「雑種」もほぼ日本系と考えられ、全体では日本系の猫を飼っている人が多いとみられる。

猫の種類	合計	7歳未満	7歳以上
n =	206	103	103
雑種	101	49	52
ミックス	31	15	16
日本猫	13	3	10
アメリカンショートヘア	12	7	5
スコティッシュフォールド	6	5	1
ブリティッシュショートヘア	4	3	1
マンチカン	4	2	2
キジトラ	3	2	1
ロシアンブルー	3	2	1
三毛猫	3	2	1
エキゾチック	2	2	
メインクーン	2	1	1
ラグドール	2	1	1
ノルウェージャンフォレストキャット	2		2
チンチラ	2		2
NA/不明	8	4	4

(人)

<7歳未満：各1人>

- アビシニアン
- サバトラ
- ペルシャ
- ポメラニアン
- 茶トラ

<7歳以上：各1人>

- オシキャット
- シャム猫
- チャチャ



2. ペットの健康診断について

(1) 受診状況 ①オーナー属性別

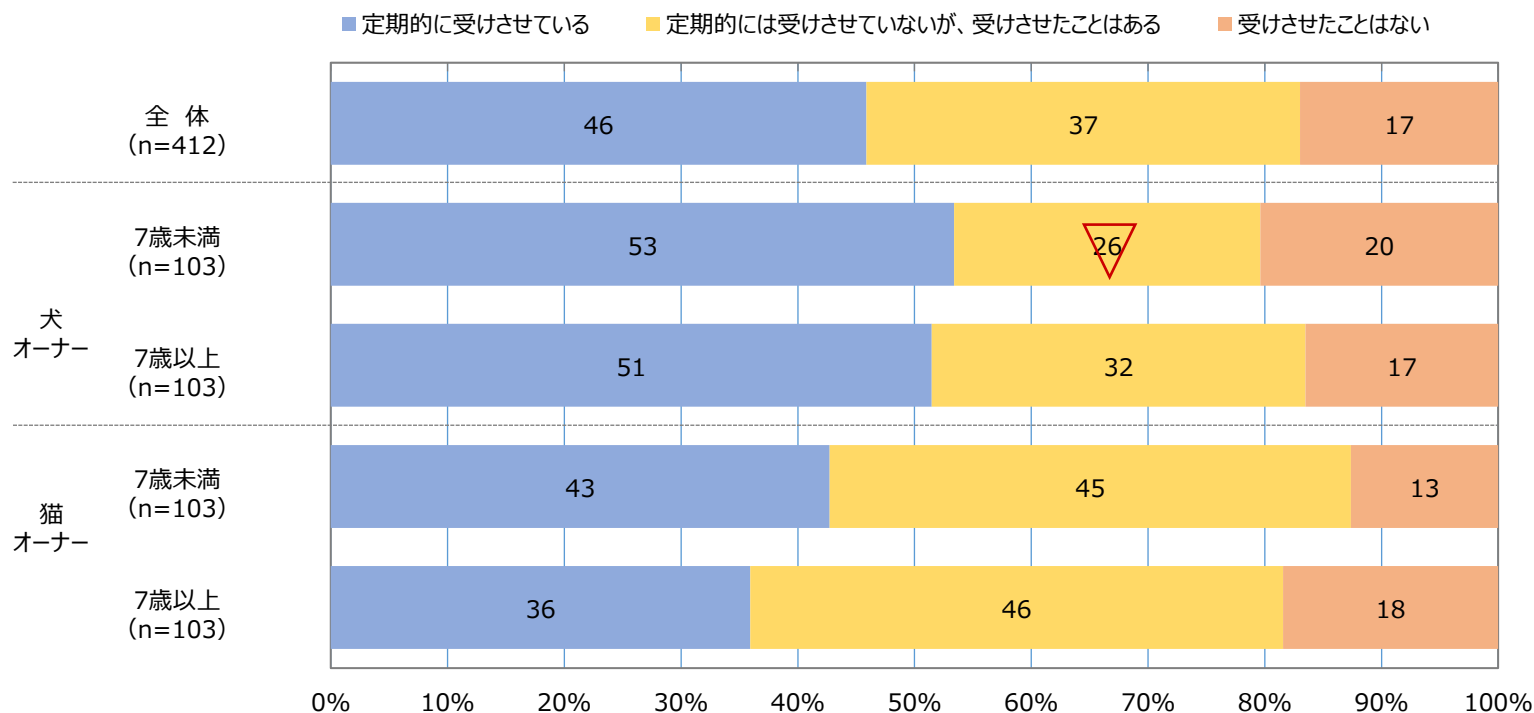


- ペットに定期的に健康診断を受けさせているオーナーは46%。定期的ではないが受診経験ありは37%。未受診率は17%と2割弱。
- オーナー別に「定期的」受診割合をみると、猫より犬のほうが多く、犬7歳未満53%。7歳以上51%と5割を超える。
- 猫は、定期的受診率は犬より下回るものの、「定期的ではないが受診経験あり」の割合は犬を上回る。

■ 健康診断の受診状況 (Q4・SA)

Q4 あなたはそのペットに、定期的に健康診断を受けさせていますか。

- 全体より10%以上多い
- ▽ 全体より10%以上少ない



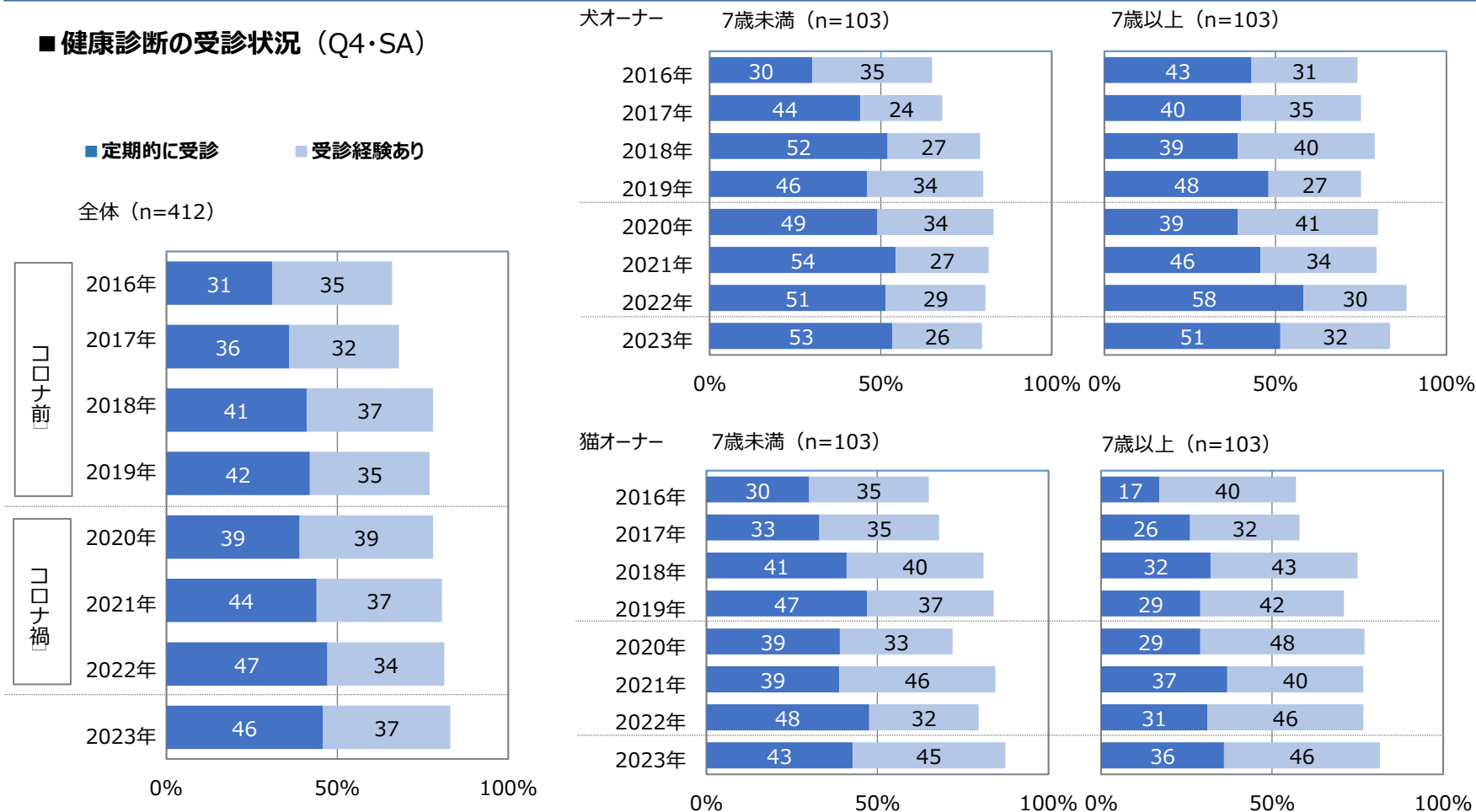


2. ペットの健康診断について

(1) 受診状況 ②時系列

- 2016年からの8年間の健康診断の定期的受診率推移をみると、全体ではコロナ禍の2020年はやや減少したものの、その後増加し、今年は横ばい。
- オーナー別に定期的受診率をみると、今年は犬7歳未満と猫7歳以上でやや増加したものの2021年の受診率にはわずかながら及ばない。犬7歳以上と猫7歳未満は昨年大幅に伸び、その反動か今年は減少に転じた。

■健康診断の受診状況 (Q4・SA)



2. ペットの健康診断について

(1) 受診状況 ③時系列/犬全体・猫全体



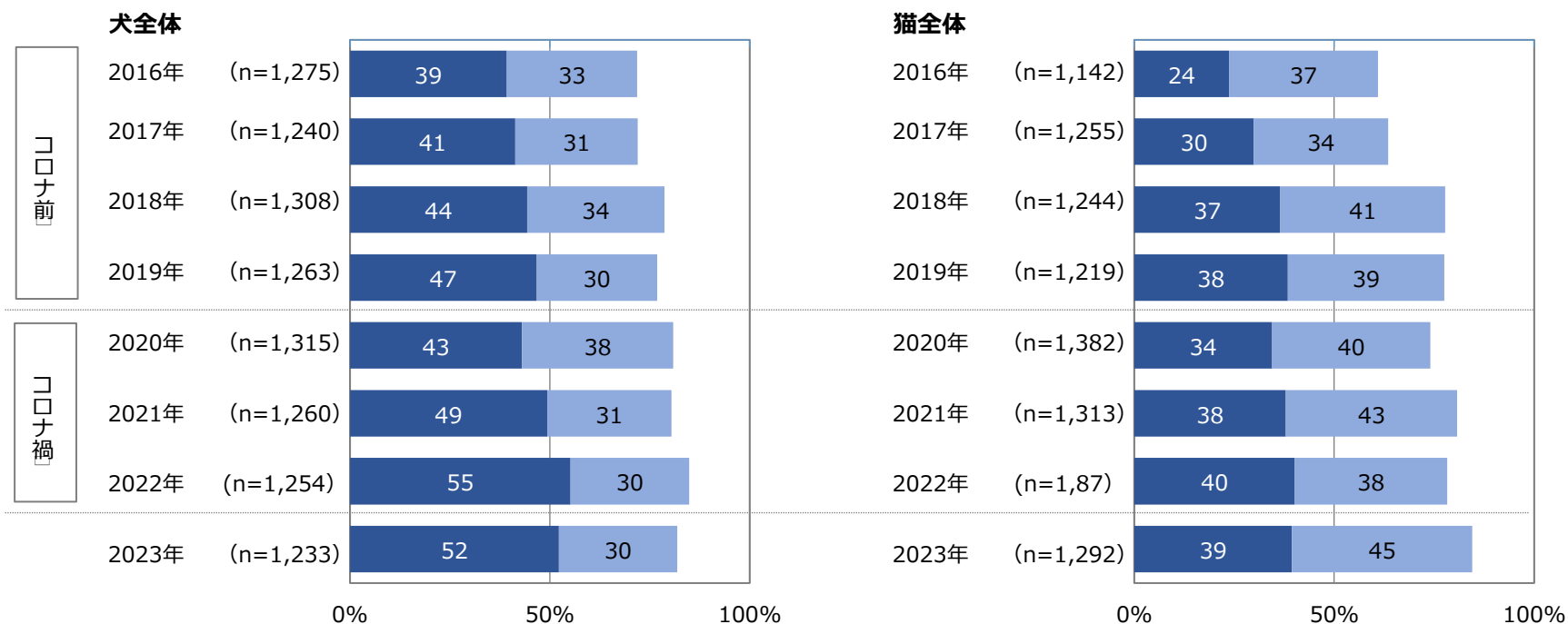
- 日本ペットフード協会の年齢構成データをもとにウェイトバックをかけた過去8年間の「犬全体」および「猫全体」の健康診断の受診率推移は下記の通り。
- 犬全体、猫全体ともにコロナ禍の2020年は定期的受診率が下がった。それを除けば、犬の定期的受診率は昨年までは増加傾向にあったが、今年はやや低下した。猫の定期受診率は2019年以降、2020年を除けば、ほぼ横ばいで推移している。

■ 健康診断の受診状況 (Q4・SA)

Q4 あなたはそのペットに、定期的に健康診断を受けさせていますか。

- 定期的に受けさせている
- 定期的には受けさせていないが、受けさせたことはある

* 日本ペットフード協会の年齢構成データをもとにウェイトバックをかけて出した数字



2. ペットの健康診断について

(1) 受診状況 ④去勢・避妊有無別

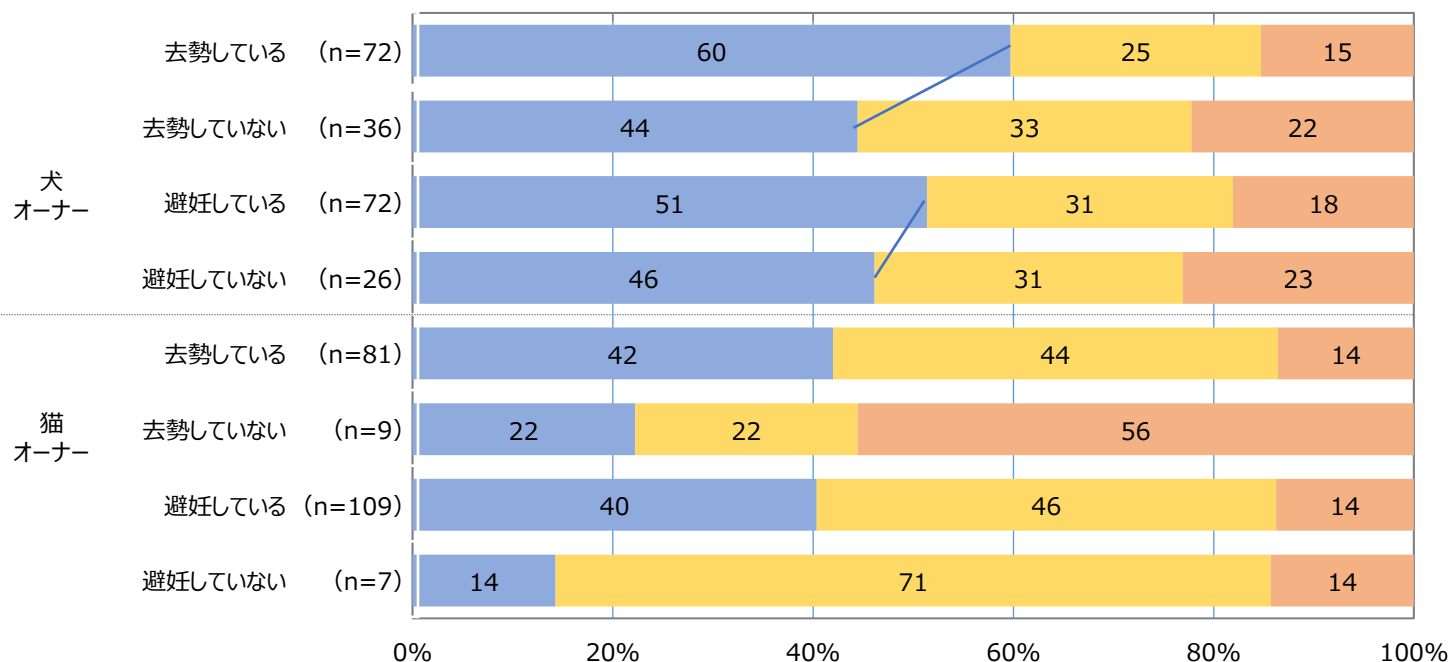


- 健康診断の受診状況をペットの去勢・避妊の有無別で見ると、犬オーナーでは、ペットを去勢もしくは避妊させているオーナーのほうが、定期的に健康診断を受診している比率が高い。

■健康診断の受診状況 (Q4・SA)

Q4 あなたはそのペットに、定期的に健康診断を受けさせていますか。

■ 定期的を受けさせている ■ 定期的には受けさせていないが、受けさせたことはある ■ 受けさせたことはない



(n = 30未満はn数が少ないため参考値)



2. ペットの健康診断について (2) 受診開始年齢



- 健診経験者の初めての健康診断受診年齢をみると、現在7歳未満では犬、猫とも0~1歳で受けさせているオーナーが多く、犬は67%、猫は72%。現在7歳以上では初受診年齢が分散しており、2歳以上で初めて受診した割合が犬では5割強、猫では5割弱となっている。
- 定期的受診者における定期健診の開始年齢をみても、犬猫とも現在7歳未満は「0歳」「1歳」が多い。現在7歳以上をみると、「0歳」は少なく、10歳以上で初めて健診を受けさせるオーナーも犬猫ともに1割弱みられる。

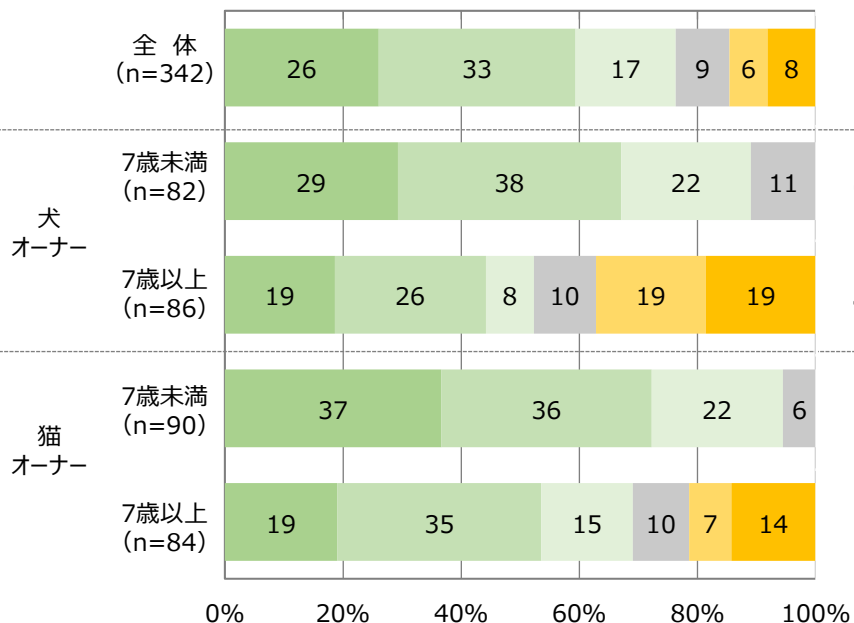
■ 初めて健康診断を受けさせた年齢 (Q5)

(健康診断「定期的+受診経験あり」)

Q5 あなたはそのペットが何歳の時に初めて健康診断を受けさせましたか。

0歳 1歳 2-3歳 4-6歳 7-9歳 10歳以上

0~1歳
計 (%)



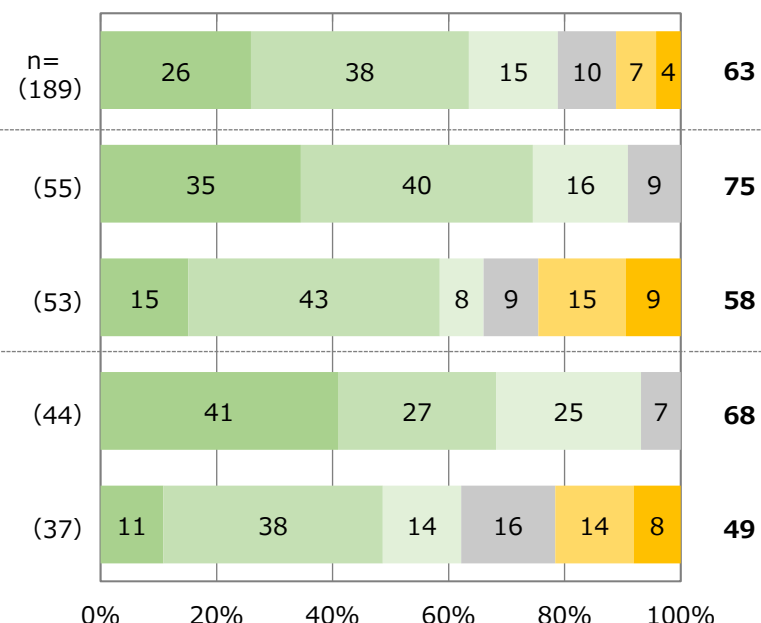
■ 初めて定期健診を受けさせた年齢 (Q6)

(健康診断「定期的」受診)

Q6 あなたはそのペットが何歳の時から、定期的に健康診断を受けさせていますか？

0歳 1歳 2-3歳 4-6歳 7-9歳 10歳以上

0~1歳
計 (%)



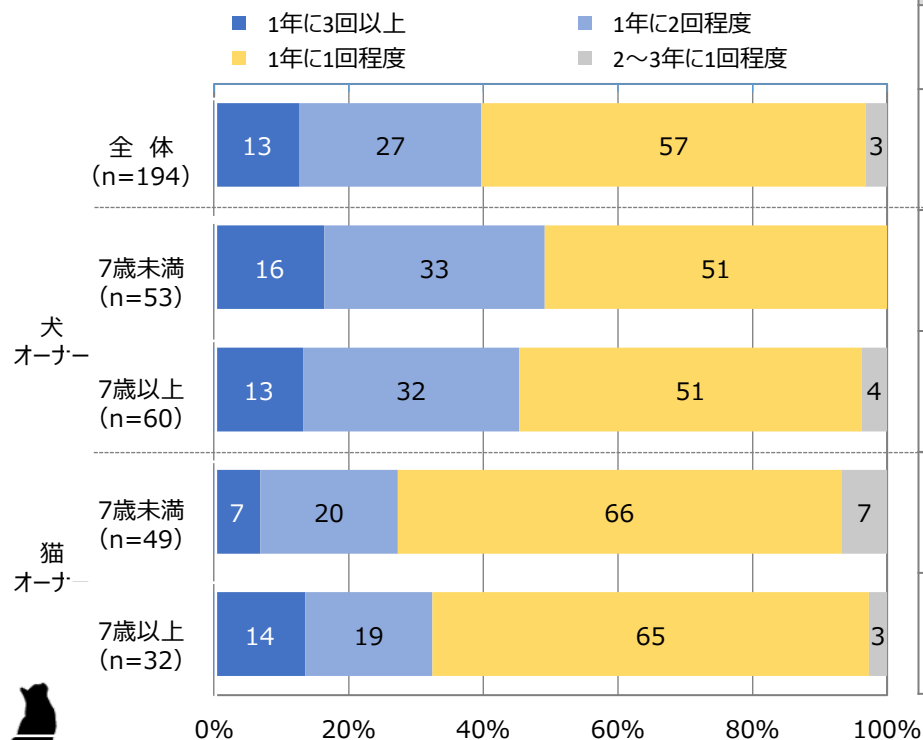
2. ペットの健康診断について (3) 受診頻度



- 定期的受診者における受診頻度をみると、「1年に1回程度」が57%と最も多く、「1年に2回程度」が27%。年2回以上は4割。
- オーナー別にみると、犬のほうが猫より受診頻度が多い割合が高く、犬7歳未満では年2回以上が55%と5割を超える。
- 時系列でみると、年2回以上の割合は、全体では、昨年の増加から今年は減少に転じている。オーナー別で増減が分かれ、減少したのは犬猫ともに7歳未満で、特に猫7歳未満は16ポイントの大幅減少となっている。

■ 受診頻度 (Q7・SA) (健康診断「定期的」受診)

Q7 定期的に健康診断を受けさせている方にお伺いします。頻度をお答えください。



<1年に2回以上受診した割合>

2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
コロナ前								コロナ禍				コロナ後			
n =	%	n =	%	n =	%	n =	%	n =	%	n =	%	n =	%	n =	%
127	35	147	30	168	37	174	41	160	44	181	39	194	43	189	40
35	34	45	40	53	34	47	38	50	50	58	32	53	55	55	49
44	36	41	34	40	40	49	45	40	38	47	40	60	40	53	45
31	36	34	21	42	43	48	44	40	43	40	50	49	43	44	27
17	29	27	19	33	30	30	37	30	47	38	34	32	28	37	32



2. ペットの健康診断について

(4) 定期的な健康診断受診のきっかけ

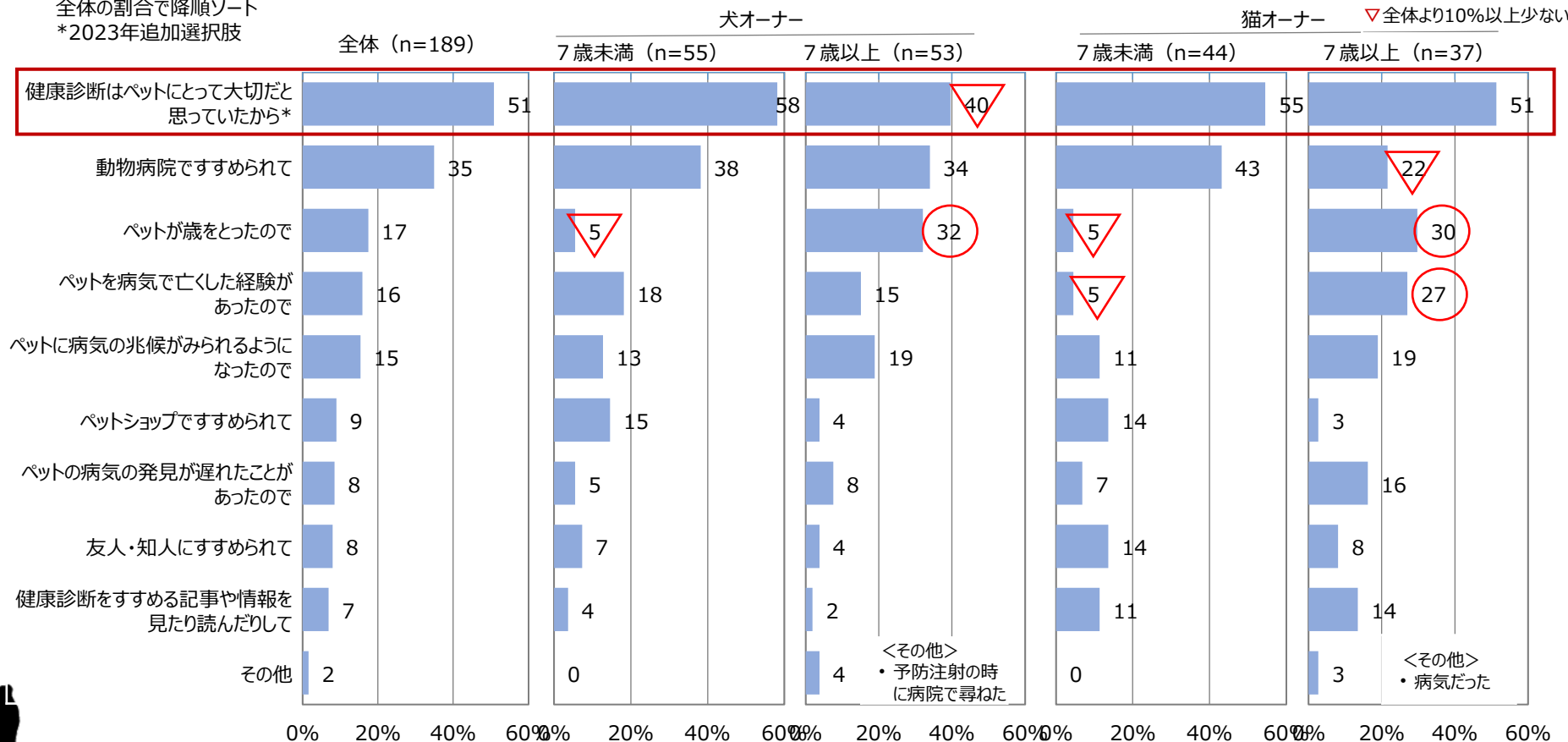
- ペットに定期的に健康診断を受けさせるきっかけとしては、今回追加した「健康診断はペットにとって大切だと思っていた」が51%で最も多く、2位の「動物病院ですすすめられて」35%を16ポイント上回る。
- オーナー別でもみてもトップは共通だが、犬7歳以上は40%とやや割合が低い。2位は、犬オーナーや猫7歳未満では「動物病院ですすすめられて」があがっているが、猫7歳以上では「ペットが歳をとったので」「ペットを病気で亡くした経験があったので」の割合が多くなっている。

■ 定期的に健康診断を受けさせるようになったきっかけ (Q8・MA)

Q8 あなたがペットに定期的に健康診断を受けさせるようになったきっかけをお答えください。

全体の割合で降順ソート
*2023年追加選択肢

○全体より10%以上多い
▽全体より10%以上少ない





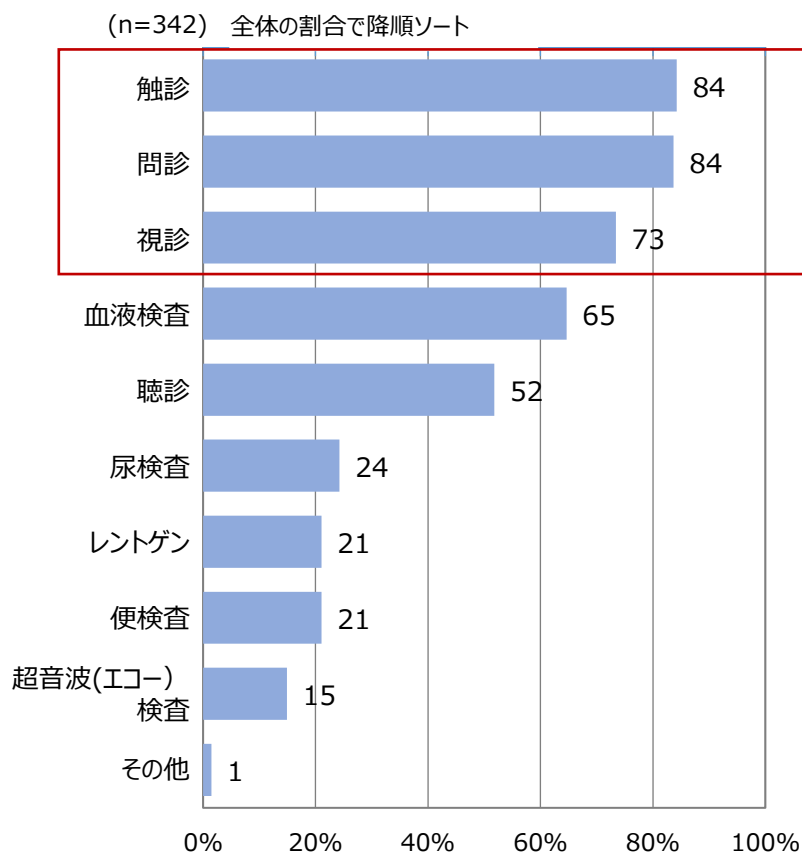
2. ペットの健康診断について

(5) 健診内容 ①オーナー属性別

- 受診率が高い健診内容は、「触診」「問診」84%、次いで「視診」73%。以下、「血液検査」「聴診」が続く。
- オーナー別にみても、受診上位3項目は共通。ただし、受診率にやや差がみられ、犬7歳未満では「問診」、犬猫ともに7歳以上では「触診」が最も多くなっている。

■ 健診内容 (Q9・MA) (健康診断「定期的+受診経験あり」)

Q9 健康診断を受けさせたことがある方にお伺いします。健診はどのような内容ですか。



	犬オーナー 7歳未満 n=83	犬オーナー 7歳以上 n=91	猫オーナー 7歳未満 n=82	猫オーナー 7歳以上 n=79	
触診	77	85	83	92	受診率トップ
問診	82	81	83	88	受診率トップ
視診	72	66	71	85	全体より10%以上多い
血液検査	65	72	51	71	全体より10%以上少ない
聴診	37	59	58	52	
尿検査	21	22	26	29	
レントゲン	13	26	21	24	
便検査	23	21	20	20	
超音波(エコー)検査	10	22	10	18	
その他	1	0	1	4	
・予防接種			・ワクチン	・ワクチン ・心電図 ・わからない	



2. ペットの健康診断について

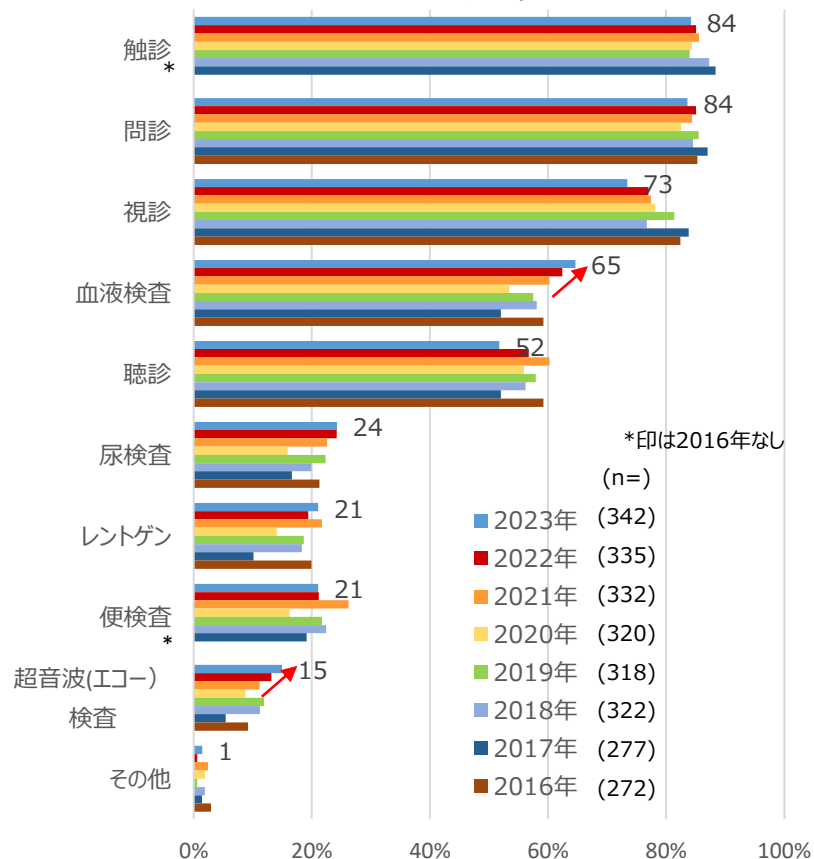
(5) 健診内容 ②時系列

- 健診内容を時系列で見ると、年により順位の変動はあるものの、この7年間のTOP3は「触診、問診、視診」。ただし、「視診」は2019年以降徐々に低下。一方、4位の「血液検査」は2020年以降増加傾向。また、「超音波（エコー）検査」は、受診率は低いながら2020年以降増加している。
- 定期的受診に関しては、昨年から今年にかけて受診率が総じて減少しているが、「血液検査」は横ばい、「超音波（エコー）検査」は増加。

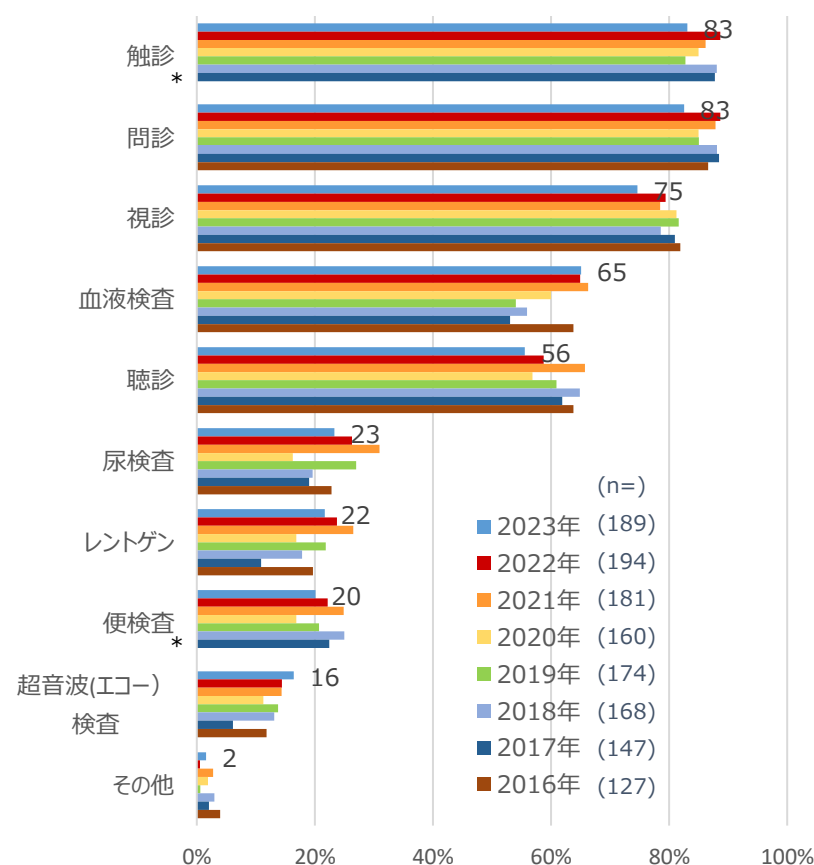
■ 健診内容 (Q9・MA)

Q9 健康診断を受けさせたことがある方にお伺いします。健診はどのような内容ですか。

■ (健康診断「定期的+受診経験あり」)



■ 健康診断「定期的に受診」





2. ペットの健康診断について

(6) レントゲン検査・尿検査非受診の理由

- レントゲン検査、尿検査を受診させなかったオーナーにその理由をきいたところ、圧倒的に多かったのはMA、SAともに「獣医師からのすすめがなかった」のでで5割を超える。MA/SA2位の「この検査の内容で十分だと思った」を大きく引き離している。
- オーナー別でも理由トップは共通で、MAの割合は5割を超える。2位理由も共通しているが、犬7歳以上では「検査項目が増えると、費用がかかるので」がMA同率2位と多いのが目立つ。

■ レントゲン検査・尿検査非受診の理由 (Q10・MA/Q11・SA)

Q10 なぜ、レントゲン検査・尿検査は受けさせていないのですか

Q11 なぜ、レントゲン検査・尿検査は受けさせていないのか一番の理由をお聞かせください

全体MAの割合で降順ソート

- 理由MA (Dark Blue)
- 最理由SA (Light Blue)
- 全体より10%以上多い (Red Circle)

全体 (n=219)

犬オーナー

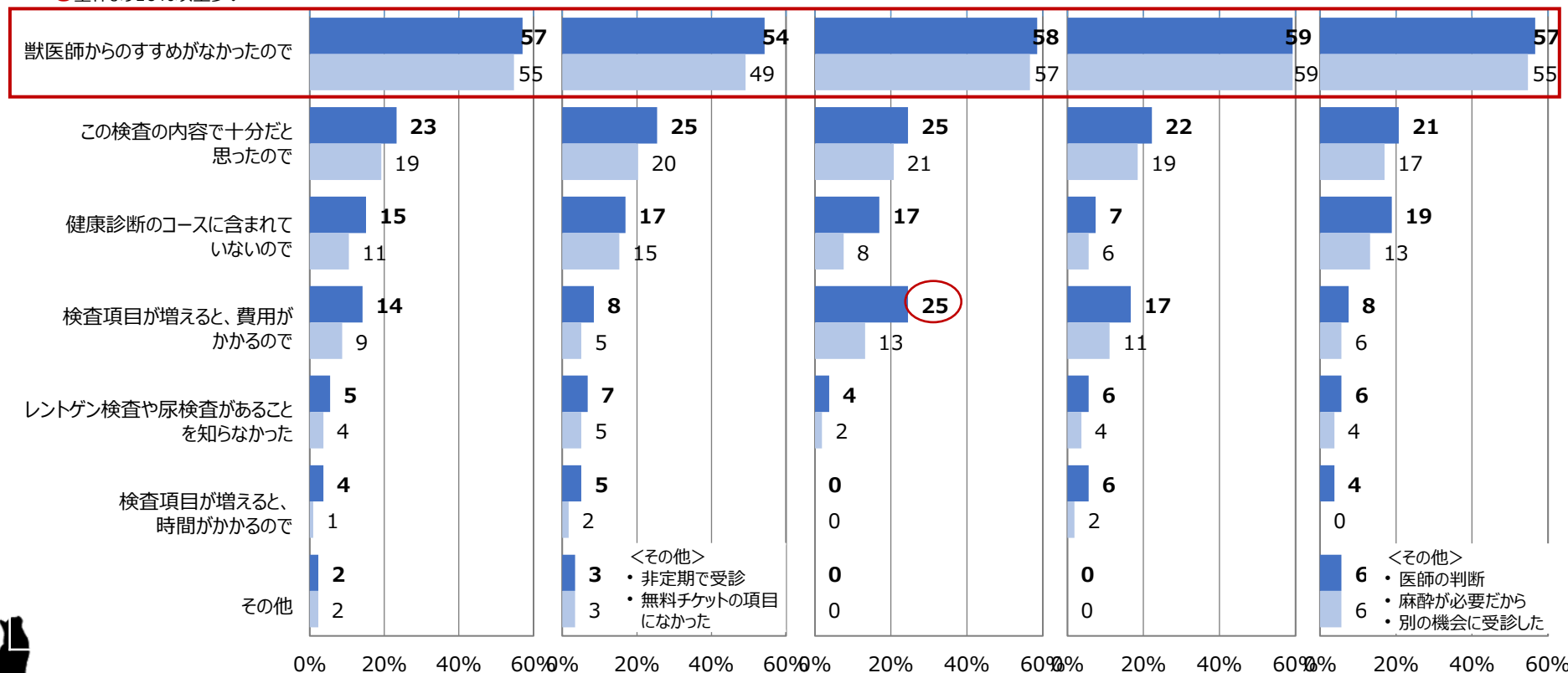
7歳未満 (n=59)

7歳以上 (n=53)

猫オーナー

7歳未満 (n=54)

7歳以上 (n=53)





2. ペットの健康診断について

(7) 健康診断で見つかった病気・異常

- 健康診断で病気や異常が見つかったことがある割合は28%と3割弱。犬猫ともに7歳以上で見つかったことありの割合が多く、犬では4割を占める。
- 病気や異常が見つかったオーナーベースでみると、見つかった部位としては「泌尿器」が29%でトップ。次いで、「循環器」「歯・口腔」「皮膚」と続く。

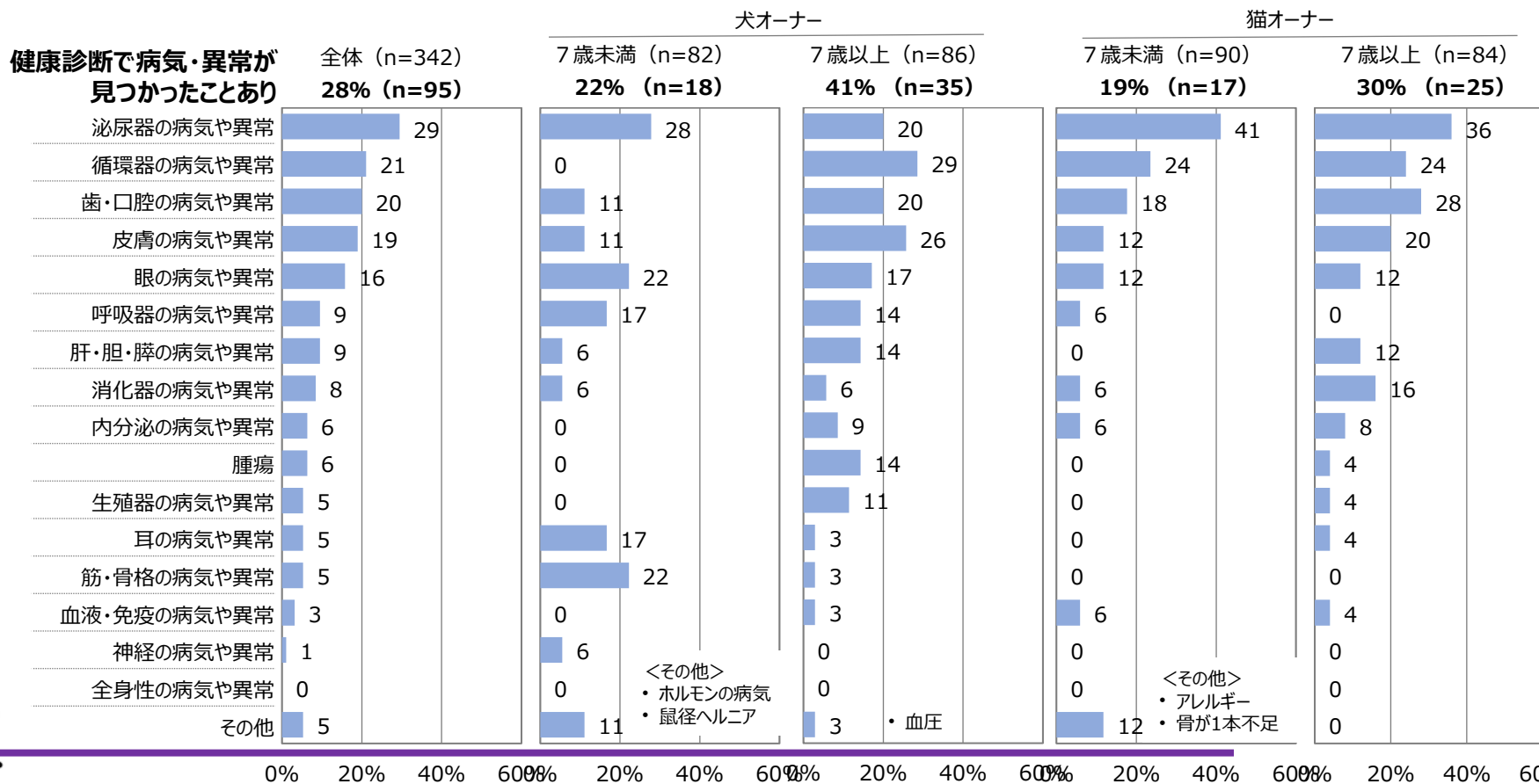
■ 健康診断で見つかった病気や異常 (Q12・SA/Q13・MA)

Q12 健康診断を受けて、病気や異常が見つかったことがありますか。

Q13 どんな病気や異常が見つかりましたか。(いくつでも)

Q13は全体の割合で降順ソート

* オーナー別はn数が少ないため参考値





2. ペットの健康診断について (8) 非受診の理由

- 健康診断を受けさせていないオーナーにその理由をきいたところ、全体ではMA/SAともに「今はペットが健康に過ごしているので」が最も多い。次いで、「健診は費用が高いので」が続く。なお、「健康診断についてよく知らない」も2割みられる。
- オーナー別は n 数が少ないため参考値ではあるが、犬猫とも7歳以上で「費用の高さ」をあげる割合が高い。

■ 健診を受けさせていない理由 (Q14・MA/Q15・SA)

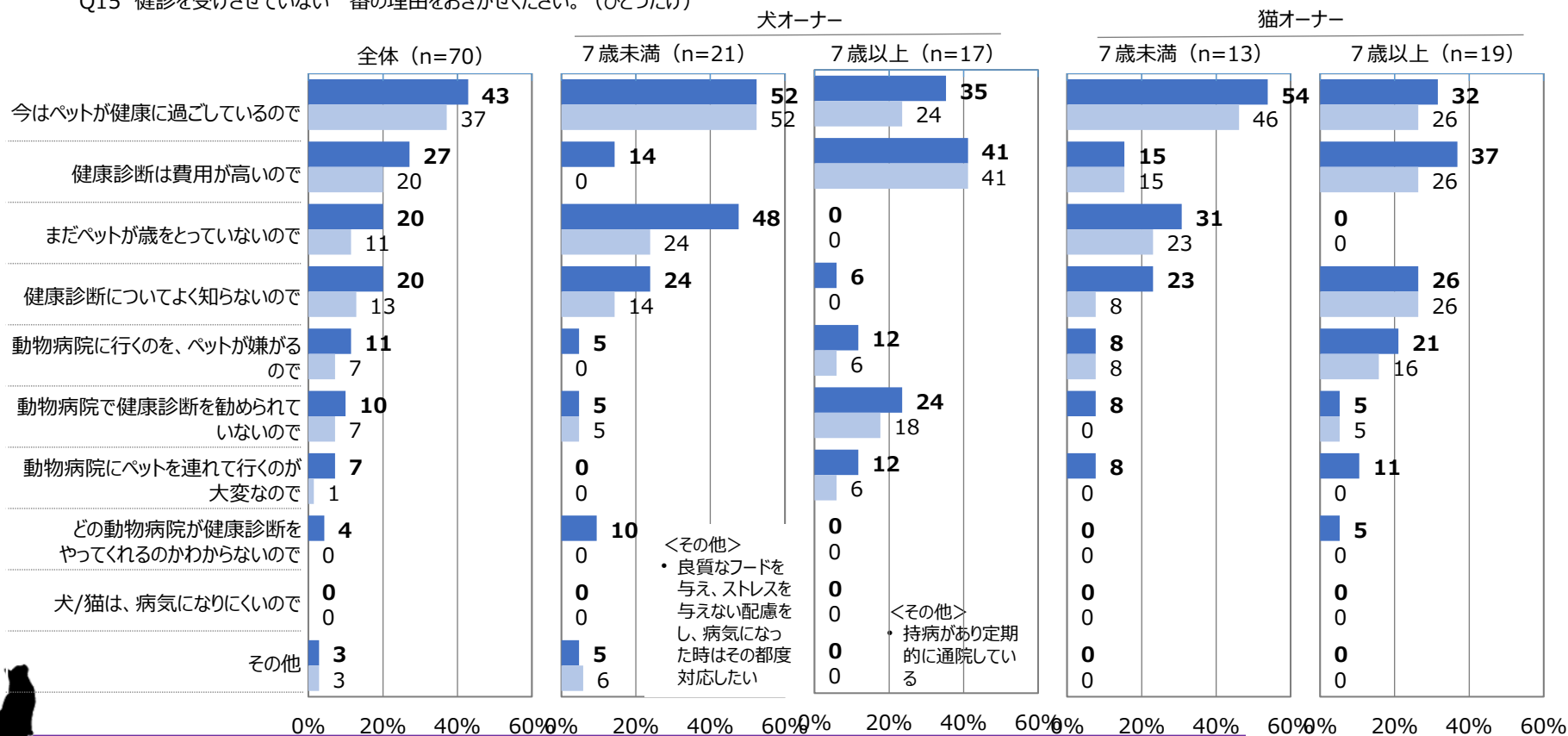
Q14 健診を受けさせていない理由をおきかせください。(いくつでも)

Q15 健診を受けさせていない一番の理由をおきかせください。(ひとつだけ)

■ 理由MA
■ 最理由SA

全体MAの割合で降順ソート

* オーナー別は n 数が少ないため参考値



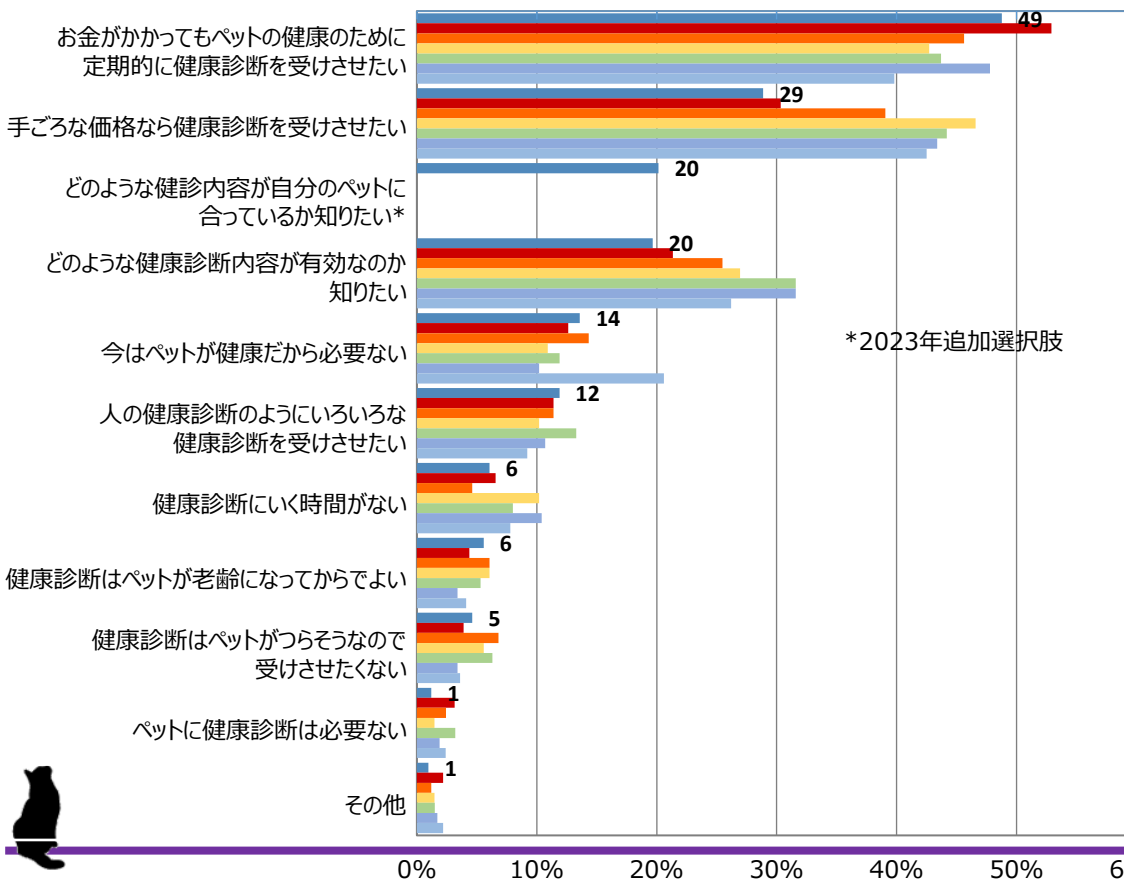
2. ペットの健康診断について (9) 考え方



- ペットの健康診断に関しては、「お金がかかってもペットの健康のために定期的に健診を受けさせたい」が49%で最も多い。ただし、この割合は昨年より低下。2位の「手ごろな価格なら健診を受けさせたい」は2020年以降減少傾向にあり、今年29%でこの8年間で最も少ない。今回追加した「どのような健診内容が自分のペットに合っているか知りたい」は20%で3位。
- オーナー別でみると、犬オーナーのほうが猫オーナーより、「お金がかかっても定期的に健診を受けさせたい」の割合が高い。

■ 当てはまる考え方 (Q16・MA) 各年n=412 Q16 あなたはペットの健康診断について、どのようにお考えですか。お気持ちに近いものをお選びください。

2022年全体の割合が多い順にソート ■ 2023 ■ 2022 ■ 2021 ■ 2020 ■ 2019 ■ 2018 ■ 2017



*2023年追加選択肢

	犬オーナー 7歳未満	犬オーナー 7歳以上	猫オーナー 7歳未満	猫オーナー 7歳以上	各n=103 (%)
お金がかかってもペットの健康のために定期的に健康診断を受けさせたい	50	54	44	47	
手ごろな価格なら健康診断を受けさせたい	26	27	30	32	
どのような健診内容が自分のペットに合っているか知りたい*	20	18	22	19	
どのような健康診断内容が有効なのか知りたい	17	19	22	20	
今はペットが健康だから必要ない	17	11	15	13	
人の健康診断のようにいろいろな健康診断を受けさせたい	17	12	11	9	
健康診断に行く時間がない	10	8	4	3	
健康診断はペットが老齢になってからでよい	6	4	5	8	
健康診断はペットがつかうようなので受けさせたくない	1	4	3	11	
ペットに健康診断は必要ない	2	0	3	0	
その他	1	0	1	2	
自然の成り行きに任せたい					
病院に行くためにケージに入るのがかなり嫌い					
獣医師として当然動物病院へ連れて行く手段がない					





3. ペットの健康寿命を延ばすことについて (1) 大切さ ①全体、オーナー属性別

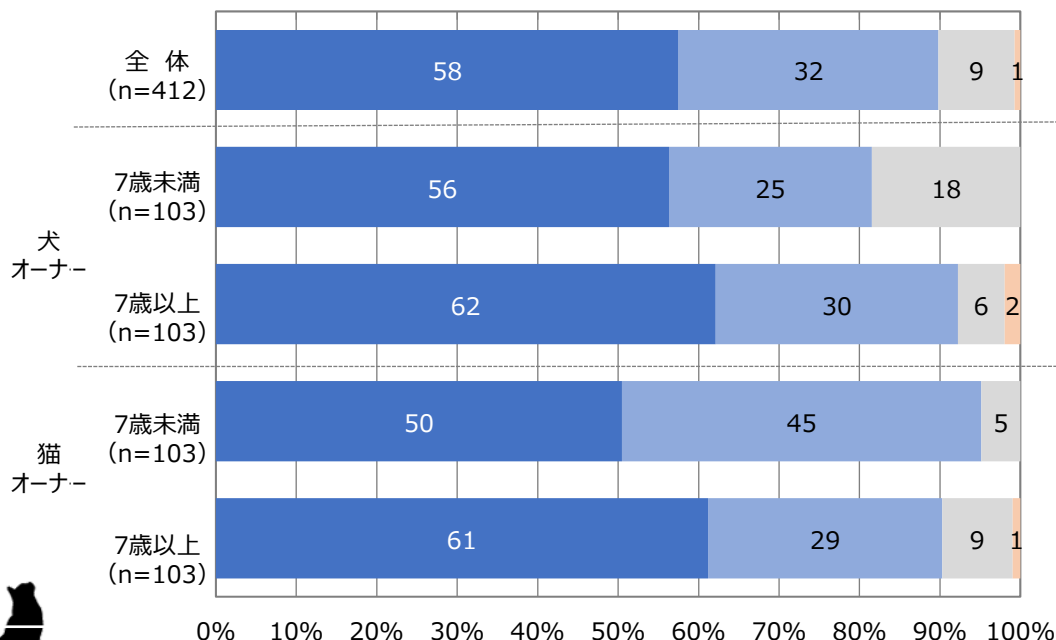
- ペットの健康寿命を延ばすことは「非常に大切」58%、「やや大切」32%で、合わせると9割が大切だと考えている。
- オーナー別でみると、大切計は、犬7歳以上と猫オーナーでは9割以上だが、犬7歳未満では8割強とやや低い。
- 時系列でみると、「（非常に+やや）大切」と考える割合は全体では微増減を繰り返していたが、今年は横ばい。オーナー別でみると、犬7歳以上および猫オーナーでは昨年より増加しているが、犬7歳未満では10ポイントの減少となっている。

■ ペットの健康寿命を延ばすことについての考え (Q17・SA)

Q17 あなたは、一緒にお暮らしになっているペットの健康寿命を延ばすことについて、どのようにお考えですか。

<大切（非常に+やや）と思う割合>

■ 非常に大切 ■ やや大切 ■ どちらともいえない ■ あまり大切ではない ■ 全く大切ではない



n =	「大切」と考える割合（非常に+やや）							
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
412	86	85	83	87	85	85	90	90
103	89	91	89	90	90	86	92	82
103	86	79	82	88	85	84	90	92
103	90	89	75	88	86	92	91	95
103	78	82	85	82	79	79	86	90



3. ペットの健康寿命を延ばすことについて

(1) 大切さ ②健康診断受診状況別

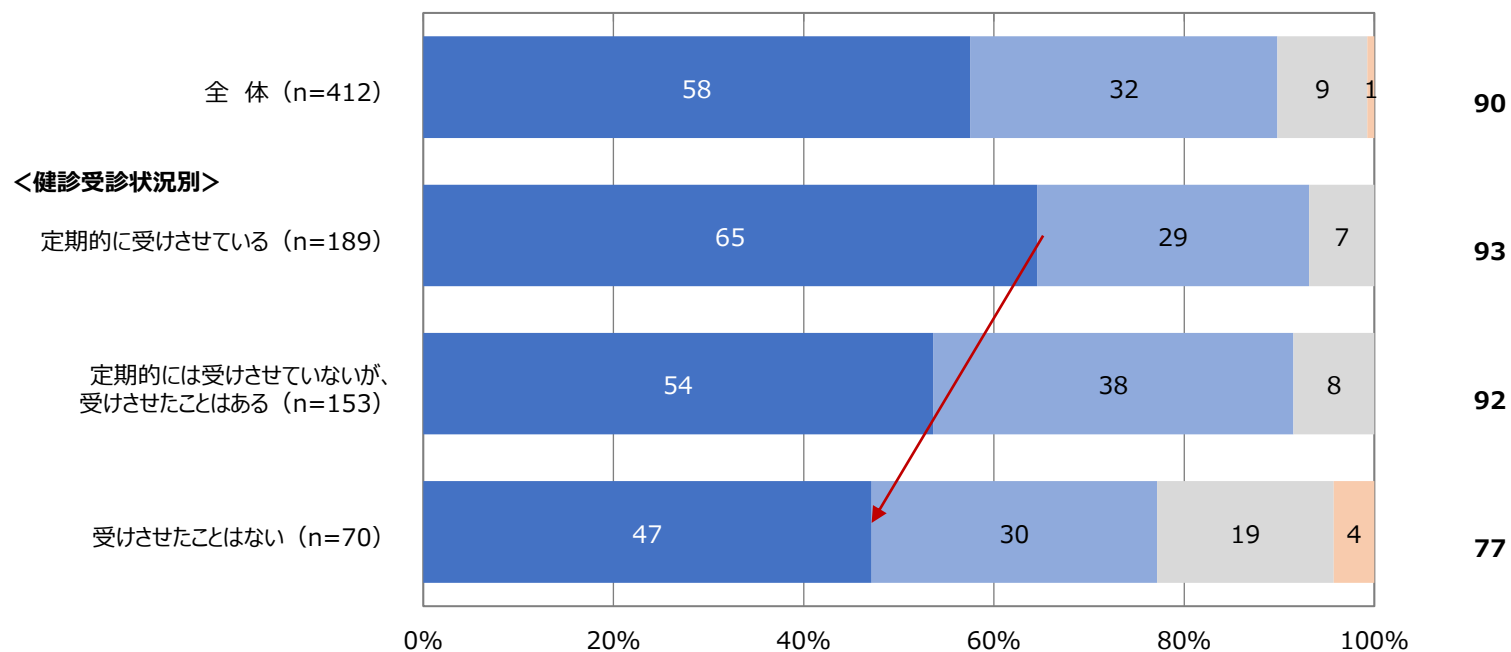
• ペットの健康寿命を延ばすことを「非常に大切」と考える割合は、健診を定期的に行っているオーナーほど多く65%みられるのに比べ、定期受診させていないが受診経験ありでは54%、未受診では47%にとどまる。

■ ペットの健康寿命を延ばすことについての考え (Q17・SA)

Q17 あなたは、一緒にお暮らしになっているペットの健康寿命を延ばすことについて、どのようにお考えですか。

■ 非常に大切 ■ やや大切 ■ どちらともいえない ■ あまり大切ではない ■ 全く大切ではない

非常に+やや
大切 (%)





3. ペットの健康寿命を延ばすことについて (2) 心がけていること ①全体、時系列

- ペットの健康寿命を延ばすために「（非常に+やや）心がけている」とTOP3は、「食事の質や量を管理する」「かかりつけの動物病院を作る」「普段の体調を把握し、異常を早く見つける」で85%以上。
- 「非常に心がけている」のみでみると、「食事の質や量を管理する」（52%）、「予防接種を受ける」（50%）の順である。
- 「（非常に+やや）心がけている」割合を時系列でみても、順位の変動はあるもののTOP3は変わらない。そのほかの項目では、「健康診断を1年に1回以上受けさせる」が昨年よりやや減っている。

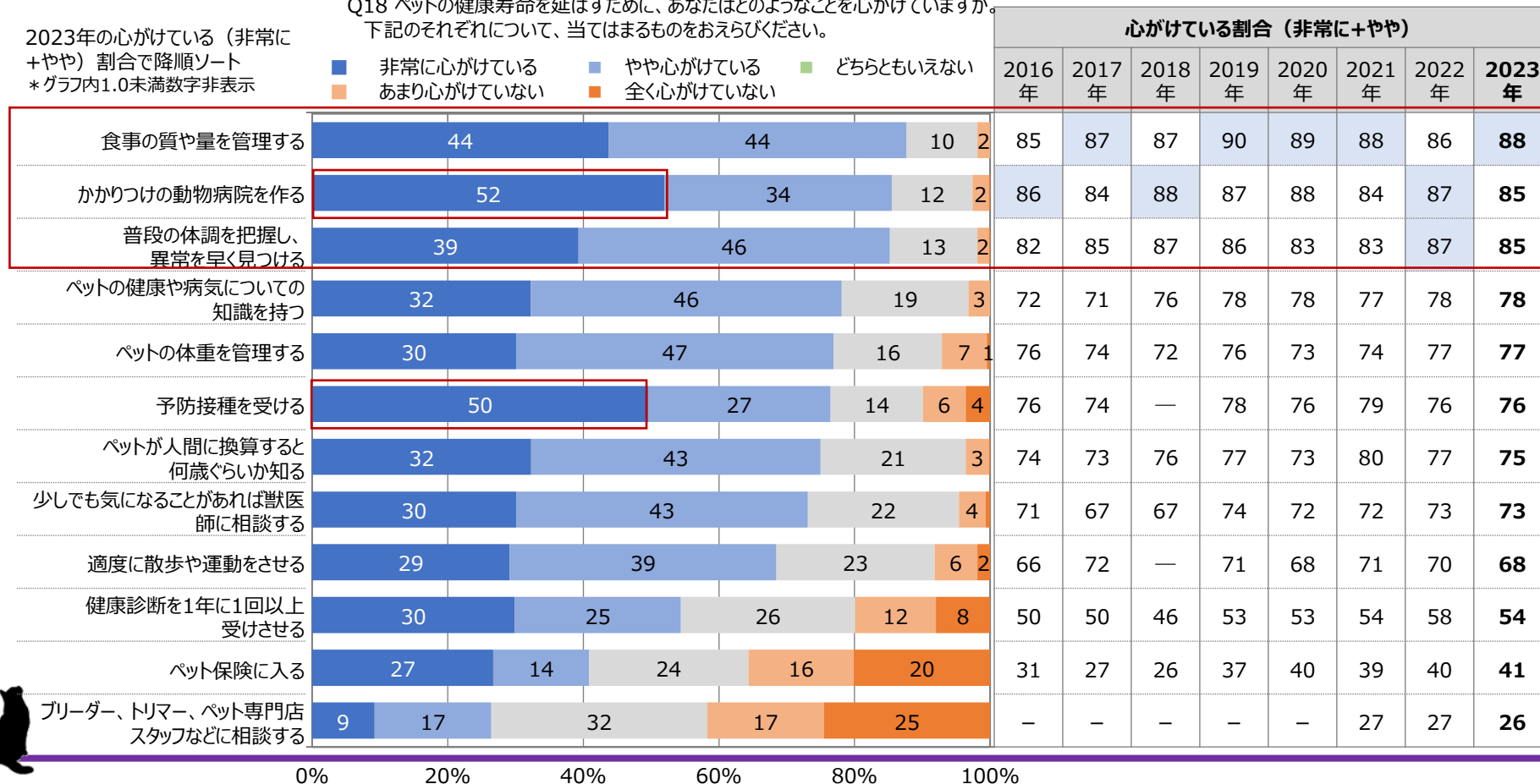
■ ペットの健康寿命を延ばすために心がけていること (Q18・各SA)

各年 ■ 1位

Q18 ペットの健康寿命を延ばすために、あなたはどのようなことを心がけていますか。
下記のそれぞれについて、当てはまるものをお選びください。

2023年の心がけている（非常に+やや）割合で降順ソート
*グラフ内1.0未満数字非表示

■ 非常に心がけている ■ やや心がけている ■ どちらともいえない
■ あまり心がけていない ■ 全く心がけていない





3. ペットの健康寿命を延ばすことについて (2) 心がけていること ②オーナー属性別

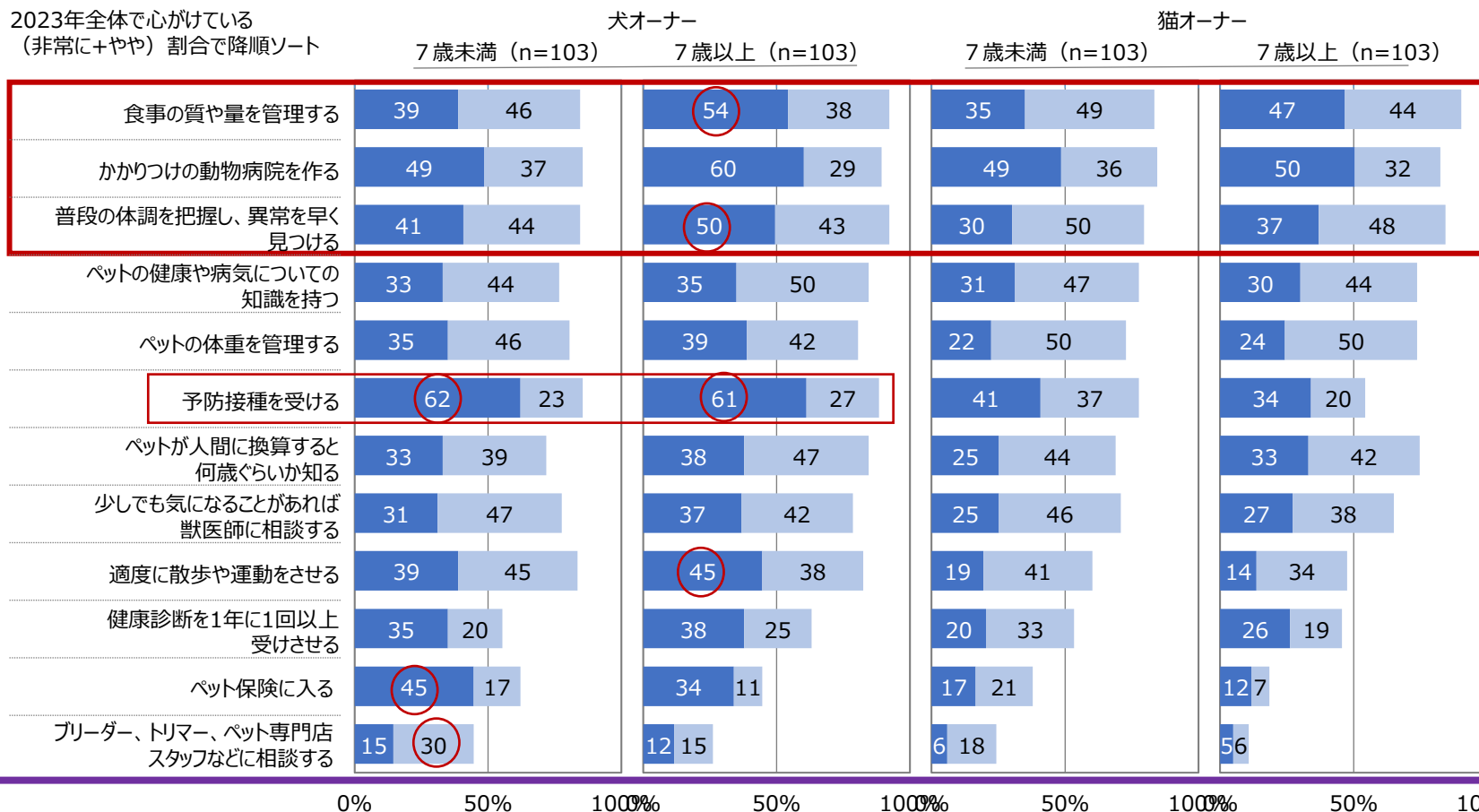
- ペットの健康寿命を延ばすために「（非常に+やや）心がけている」ことをオーナー別にみると、犬オーナーは、全体上位3項目に加えて「予防接種を受ける」の割合が多い。
- 「非常に心がけている」のみでみても、犬オーナーでは「予防接種を受ける」の割合が最も多い。そのほか、「非常に心がけている」の割合は、大半の項目で、犬オーナーのほうが猫オーナーより割合が多くなっている。

■ ペットの健康寿命を延ばすために心がけていること (Q18・各SA)

○全体より10%以上多い

■ 非常に心がけている ■ やや心がけている

2023年全体で心がけている
(非常に+やや) 割合で降順ソート





3. ペットの健康寿命を延ばすことについて (2) 心がけていること ③健康受診状況別

- 定期的に健診を受けさせているオーナーは、そうでないオーナーに比べて、健康寿命を延ばすために様々なことに気をつけている。
- 特に、「非常に心がけている」をみると、定期的受診オーナーでは「かかりつけの動物病院を作る」「予防接種を受ける」が7割弱と多い。そのほか、「少しでも気になることがあれば獣医師に相談する」「健康診断を1年に1回以上受けさせる」「ペット保険に入る」の割合も、定期的に受診させていないオーナーを倍以上上回る。

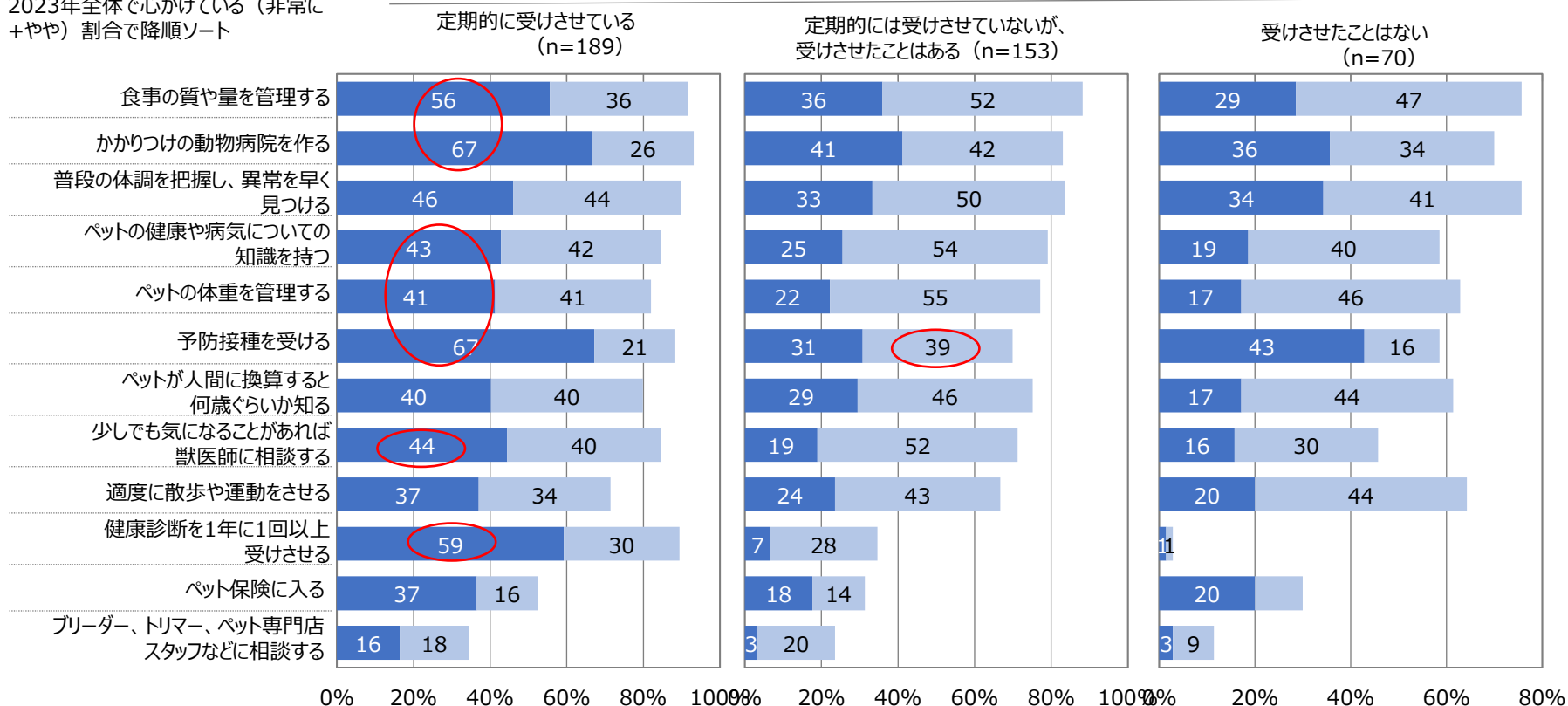
■ ペットの健康寿命を延ばすために心がけていること (Q18・各SA)

■ 非常に心がけている ■ やや心がけている

○ 全体より10%以上多い

2023年全体で心がけている（非常に+やや）割合で降順ソート

<健診受診状況別>



4. 動物病院について

(1) かかりつけ動物病院の有無

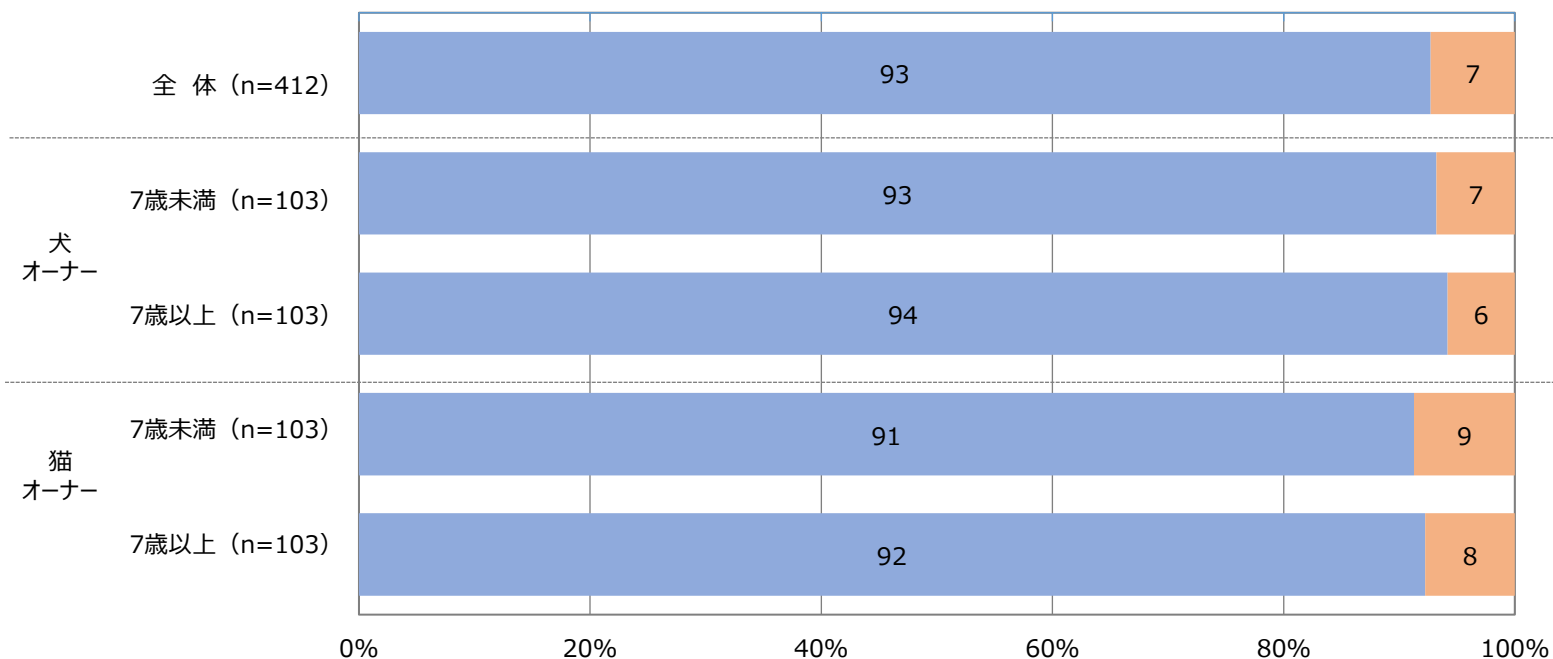


- かかりつけ動物病院が「ある」は93%。
- オーナー別にみても、いずれも9割を超える。

■ かかりつけ動物病院の有無 (Q19)

Q19 あなたには、かかりつけの動物病院がありますか。

■ ある ■ なし



4. 動物病院について

(2) 動物病院選定時の重視点 ①全体、時系列



- 動物病院を選ぶ時の重視点としては、「獣医師やスタッフの人柄の良さ」「診察時の説明が分かりやすいこと」「自宅から近いこと」が6割前後と多く、次いで「気になることがあったら気軽に相談に乗ってもらえること」が5割。最も重視する点としても、この4項目が上位を占める。
- 時系列でも、順位の変動はあるものの、同4項目がこの7年間のTOP4となっている。過去比で今年大幅に増えたのは「料金が低いこと」。一方、「設備環境が整っていること」は一昨年から徐々に低下。

■ 動物病院選定時の重視点 (Q20・MA/Q21・SA)

Q20 あなたは、動物病院を選ぶ際、どのような点を重視しますか。

Q21 上記の中で最も重視するのはどのような点ですか。1つだけお答えください。

2023年 Q20の割合で降順ソート

■ 重視点MA
■ 最重視点SA

■ 各年1位

	重視点MA (各年n=412)								最重視点SA (各年n=412)							
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023		
獣医師やスタッフの人柄の良さ	60	58	58	60	57	61	60	18	19	16	19	16	15	16		
診察時の説明が分かりやすいこと	59	58	59	58	58	59	59	19	19	20	18	18	18	18		
自宅から近いこと	56	57	61	61	60	59	58	11	15	19	20	17	16	15		
気になることがあったら気軽に相談に乗ってもらえること	48	48	48	52	55	51	50	14	14	13	12	17	16	17		
料金設定が明確であること	45	39	36	41	44	36	38	5	6	5	4	4	4	3		
土日も開業していること	43	40	37	41	38	37	36	6	5	5	7	3	5	5		
健康についてのアドバイスが受けられること	38	40	35	35	36	44	35	5	4	5	4	3	4	4		
料金が低いこと	21	21	23	18	21	18	31	3	1	2	2	1	1	5		
病気の時に専門的な検査や高度な治療をしてもらえること	-	-	-	-	29	33	30	-	-	-	-	10	10	9		
設備環境が整っていること	44	40	34	37	38	32	21	9	7	7	6	6	5	1		
知人の評判や口コミ	19	17	15	16	17	14	17	2	2	2	2	1	1	3		
夜間救急対応があること	24	19	16	20	20	17	15	2	2	2	2	2	1	1		
犬または猫専用の待合室や診察室があること*							11							0		
ネット上の評判のよさ	9	8	9	8	9	11	10	0	0	0	0	0	0	1		
獣医療だけでなく、他のサービスも付随していること	8	6	8	8	11	8	8	0	1	0	0	0	0	0		
往診してくれること	3	5	3	3	4	4	6	0	0	0	0	0	0	1		
獣医療だけでなく、グッズやペットフードなどの販売をしていること	6	5	4	6	7	4	5	0	0	0	0	1	0	0		
その他	1	1	1	1	0	2	1	1	1	0	1	0	1	1		

0% 20% 40% 60% 80%

4. 動物病院について

(2) 動物病院選定時の重視点 ②オーナー属性別



・動物病院を選ぶ時の重視項目と最重視項目をオーナー別にみても上位4項目は割合の違いはあるものの全体と共通で、「獣医師やスタッフの人柄の良さ」「診察時の説明が分かりやすいこと」「自宅から近いこと」「気になることがあったら気軽に相談に乗ってもらえること」があがっている。

■動物病院選定時の重視点 (Q20・MA/Q21・SA)

Q20 あなたは、動物病院を選ぶ際、どのような点を重視しますか。

Q21 上記の中で最も重視するのはどういった点ですか。1つだけお答えください。

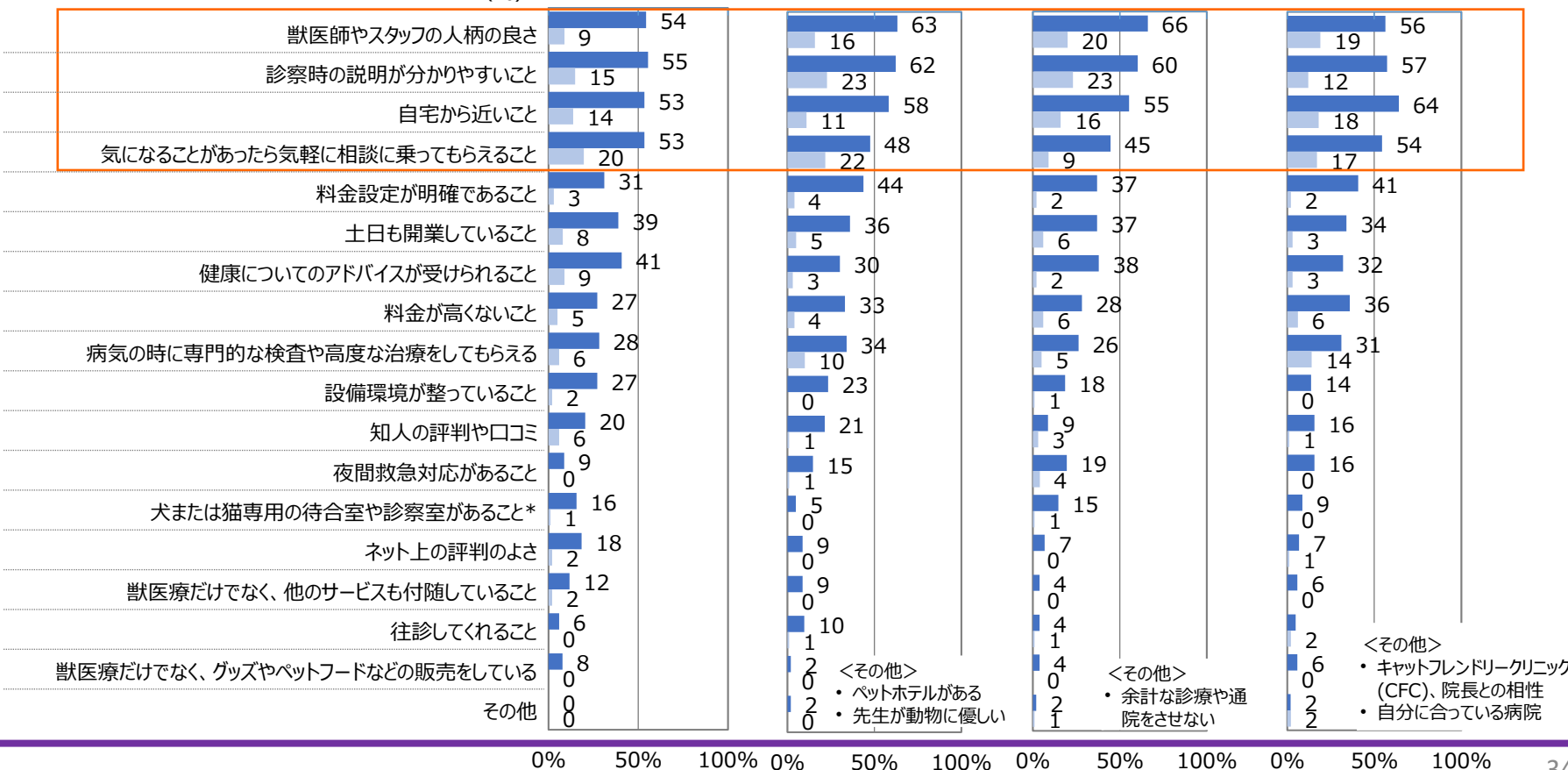
Q20の全体の割合で降順ソート

■ 重視点MA ■ 最重視点SA

犬オーナー

猫オーナー

(%) 7歳未満 (n=103) 7歳以上 (n=103) 7歳未満 (n=103) 7歳以上 (n=103)



4. 動物病院について

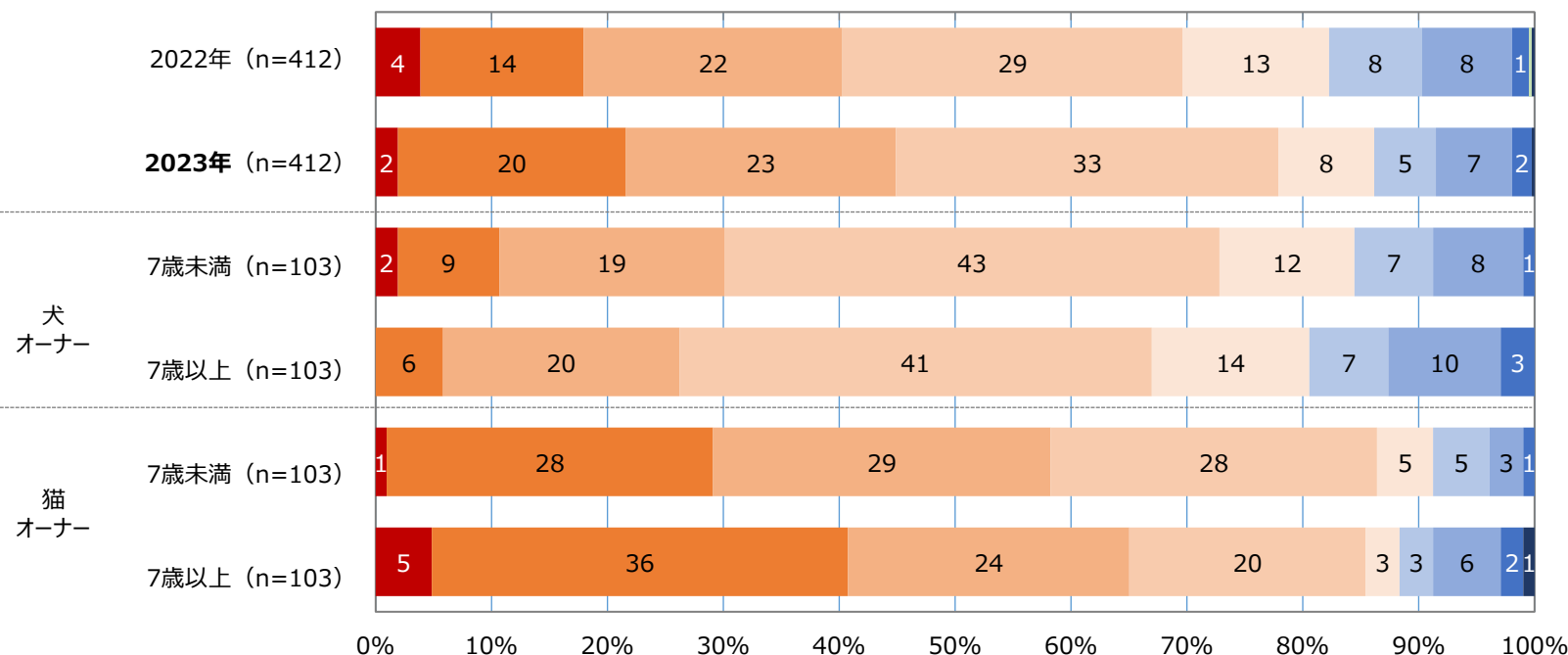
(3) ペットを動物病院へ連れて行く頻度



- ペットを動物病院へ連れて行く頻度は、「年に2～3回程度」が29%と最も多く、次いで「年に1回程度」が22%。
- 昨年と比べると、「年に1回未満」～「年に2～3回程度」が増えており、頻度は総じて減っている。
- オーナー別にみると、犬オーナーのほうが猫オーナーよりも連れて行く頻度が多めである。

■ ペットを動物病院へ連れて行く頻度 (Q22・SA)

Q22 あなたはペットを動物病院にどのくらいの頻度で連れて行きますか。 ※平均的な頻度をお答えください。



5. 「ペットの健康診断の日」について (1) 認知状況

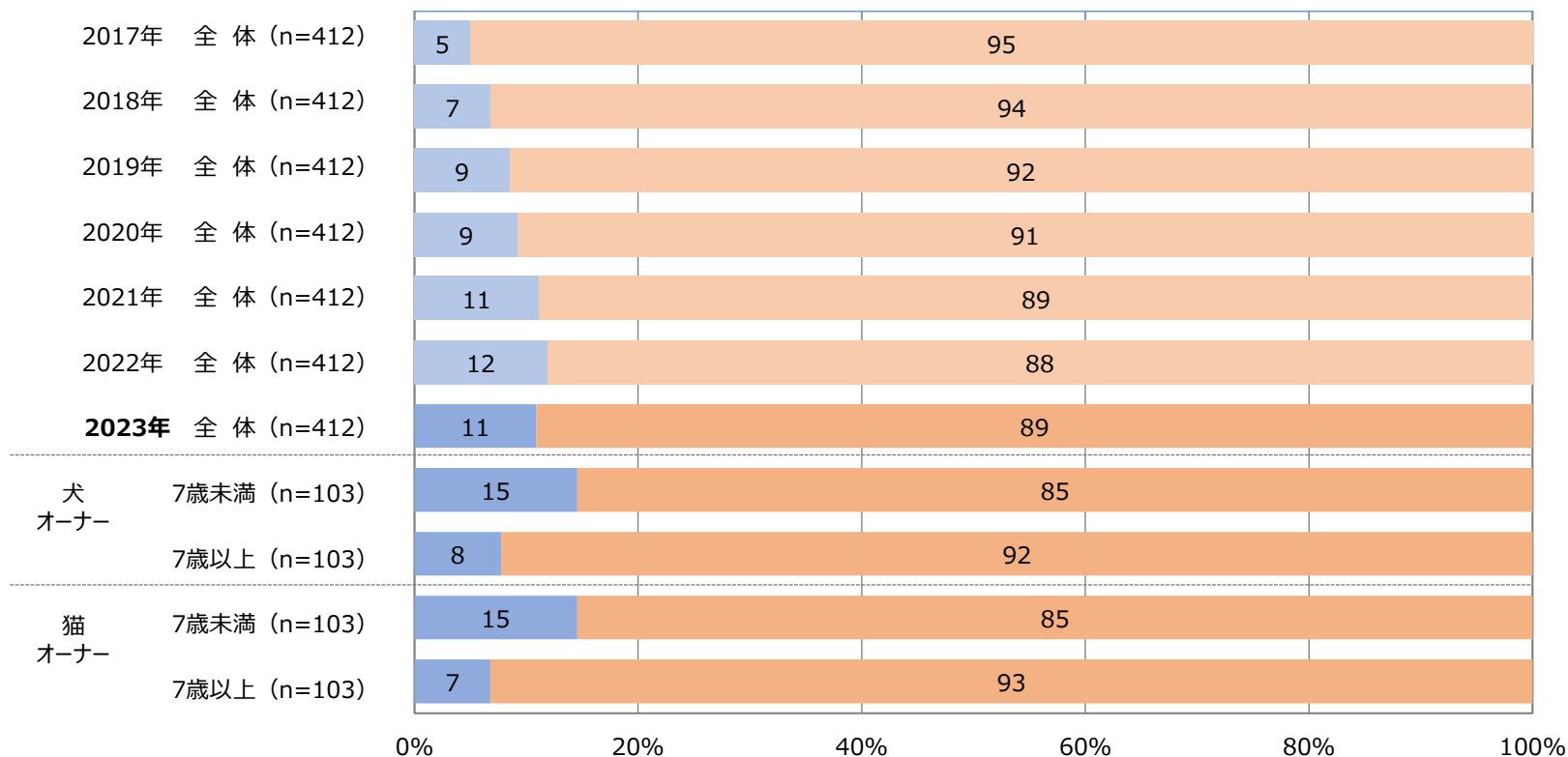


- 10月13日が「ペットの健康診断の日」であることを知っている人は11%と1割強。昨年までの6年間は認知率が徐々に上がっていたが、今年は微減。
- オーナー別でみると、犬猫とも7歳未満のほうが認知率が高い。

■ 10月13日が「ペットの健康診断の日」であることの認知 (Q23・SA)

Q23「ペットの健康診断の日」についてお伺いします。
あなたは10月13日（じゅういさん）が、「ペットの健康診断の日」であることを知っていますか。

■ 知っている ■ 知らない





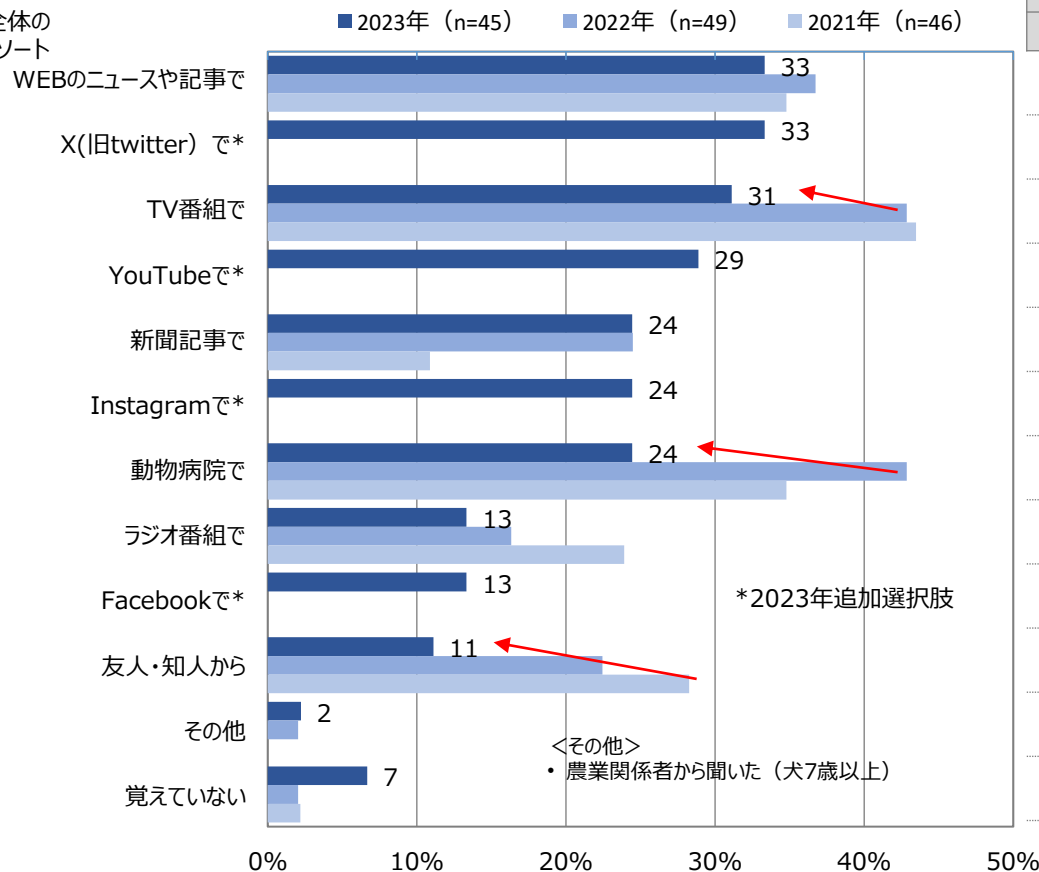
5. 「ペットの健康診断の日」について (2) 情報源

- 「ペットの健康診断の日」認知者の情報源としては、「WEBのニュースや記事」と「X (旧twitter)」が同率の33%、次いで「TV番組」31%が僅差で続く。SNSで比べると、X (旧twitter) > YouTube > Instagram > Facebook の順。
- 昨年に比べると「TV番組」「動物病院」「友人・知人から」の割合が大幅に低下した。

■「ペットの健康診断の日」の情報源 (Q24・MA)

Q24「ペットの健康診断の日」について何でご覧に (お聞きに) になりましたか。

2023年の全体の割合で降順ソート



2023年 (* n数が少ないため参考値) (%)

犬オーナー 7歳未満	犬オーナー 7歳以上	猫オーナー 7歳未満	猫オーナー 7歳以上
n=15	n=8	n=15	n=7
47	13	27	43
33	13	40	43
40	25	13	57
33	25	27	29
27	25	27	14
33	13	20	29
20	38	27	14
20	25	0	14
13	13	13	14
20	13	0	14
0	13	0	0
0	13	7	14



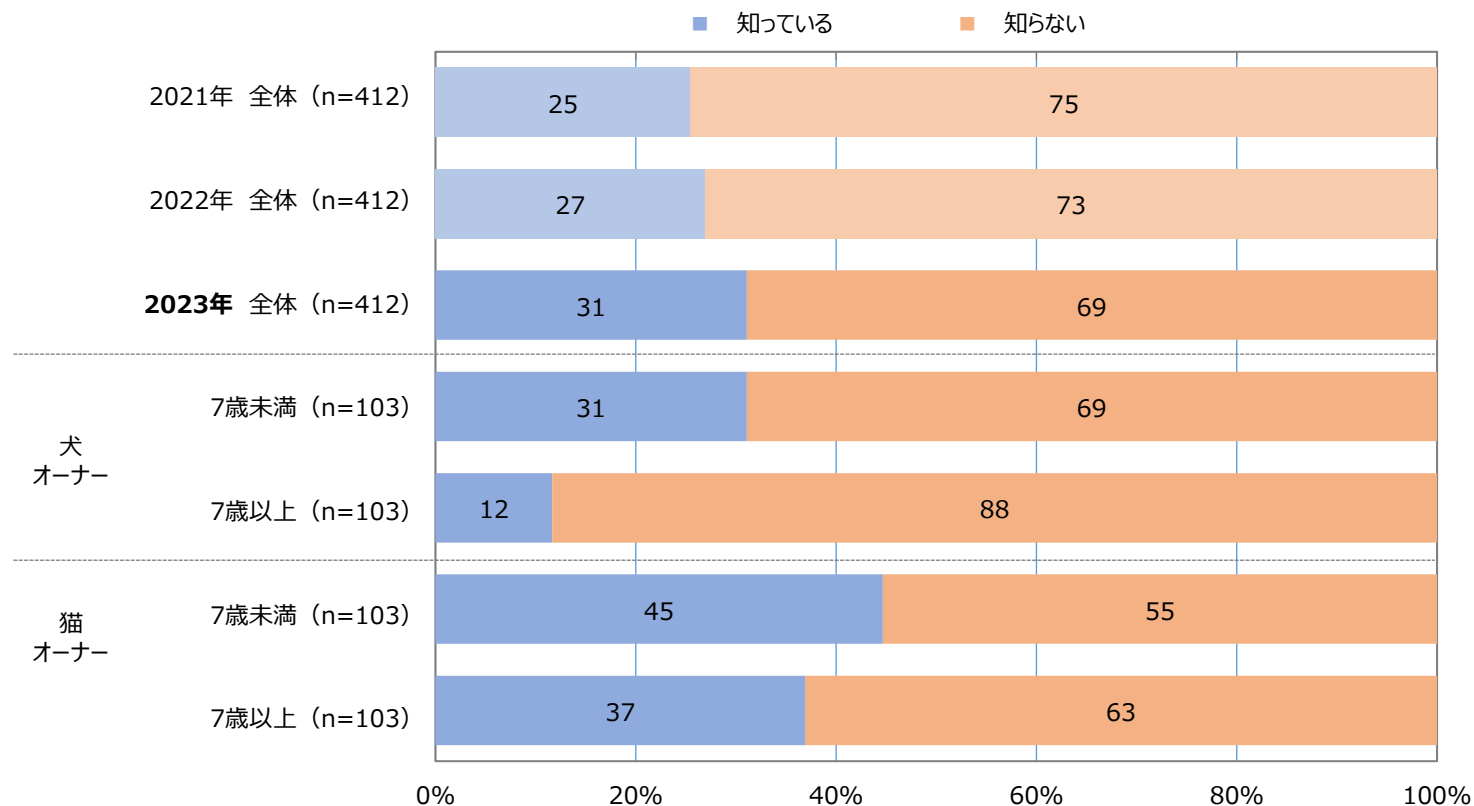
6. 「猫の健康診断の日」について (1) 認知状況



- 2月22日が「猫の健康診断の日」であることを知っている人は31%で、2021年以降増加している。
- オーナー別でみると、猫7歳未満で45%と多い。

■ 2月22日が「猫の健康診断の日」であることの認知 (Q25・SA)

Q25 あなたは2月22日（にゃんにゃんにゃん）が、「猫の健康診断の日」であることを知っていますか





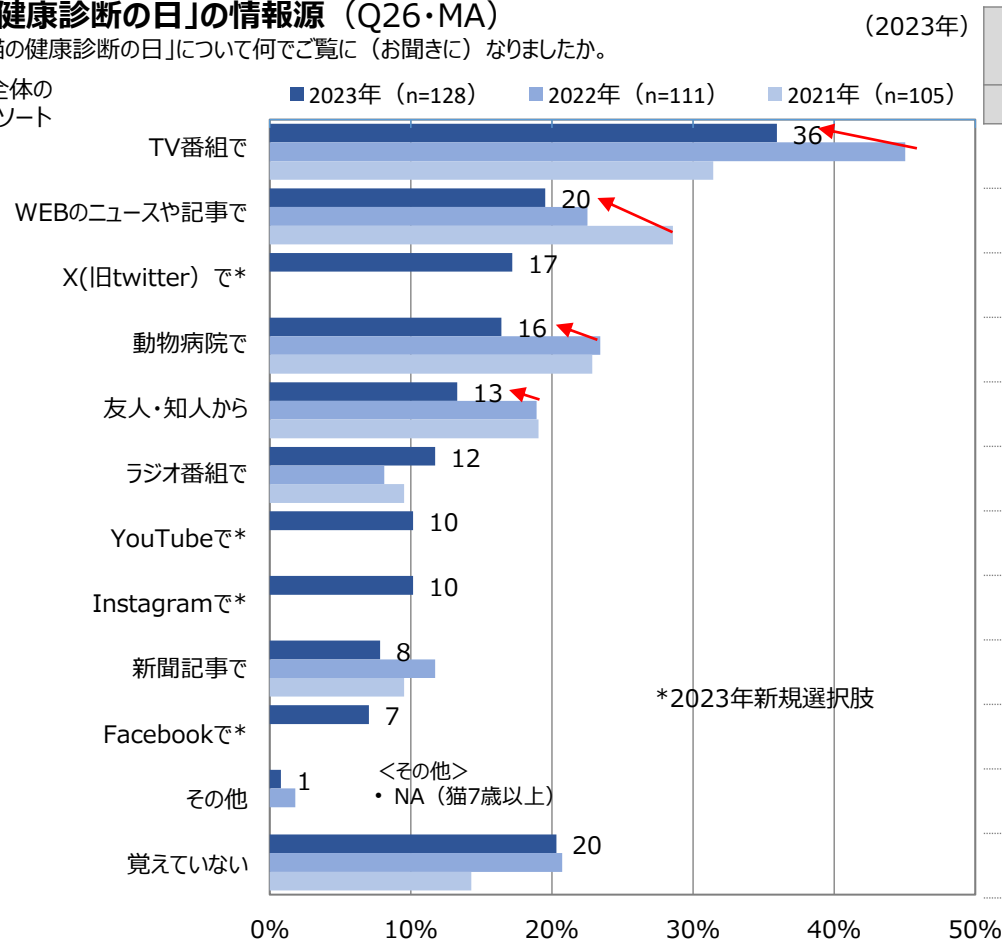
6. 「猫の健康診断の日」について (2) 情報源

- 「猫の健康診断の日」認知者の情報源としては「TV番組」が36%と圧倒的に多く、「WEBのニュースや記事」「X (旧twitter)」「動物病院」「友人・知人から」が続く。昨年と比べると、上位情報源は軒並み低下。
- 猫オーナーでは7歳未満も7歳以上もトップは「TV番組」だが、割合を比べると7歳以上のほうが多い。また、7歳未満では、「動物病院」も同率でトップ情報源となっている。また、「X (旧twitter)」も多い。

■「猫の健康診断の日」の情報源 (Q26・MA)

Q26 「猫の健康診断の日」について何をご覧に (お聞きに) なりましたか。

2023年の全体の割合で降順ソート



(2023年)

	犬オーナー 7歳未満 n = 32	犬オーナー 7歳以上 n = 12	猫オーナー 7歳未満 n = 46	猫オーナー 7歳以上 n = 38	(%)
TV番組で	41	33	24	47	<
WEBのニュースや記事で	31	25	17	11	
X(旧twitter) で*	25	8	22	8	>
動物病院で	13	17	24	11	>
友人・知人から	25	17	11	5	
ラジオ番組で	9	33	9	11	
YouTubeで*	16	25	9	3	
Instagramで*	19	8	9	5	
新聞記事で	13	8	4	8	
Facebookで*	16	8	4	3	
その他	0	0	0	3	
覚えていない	9	25	17	32	

(* 犬オーナー7歳以上はn数が少ないため参考値)





7. 「Team HOPE」について (1) ロゴマーク認知



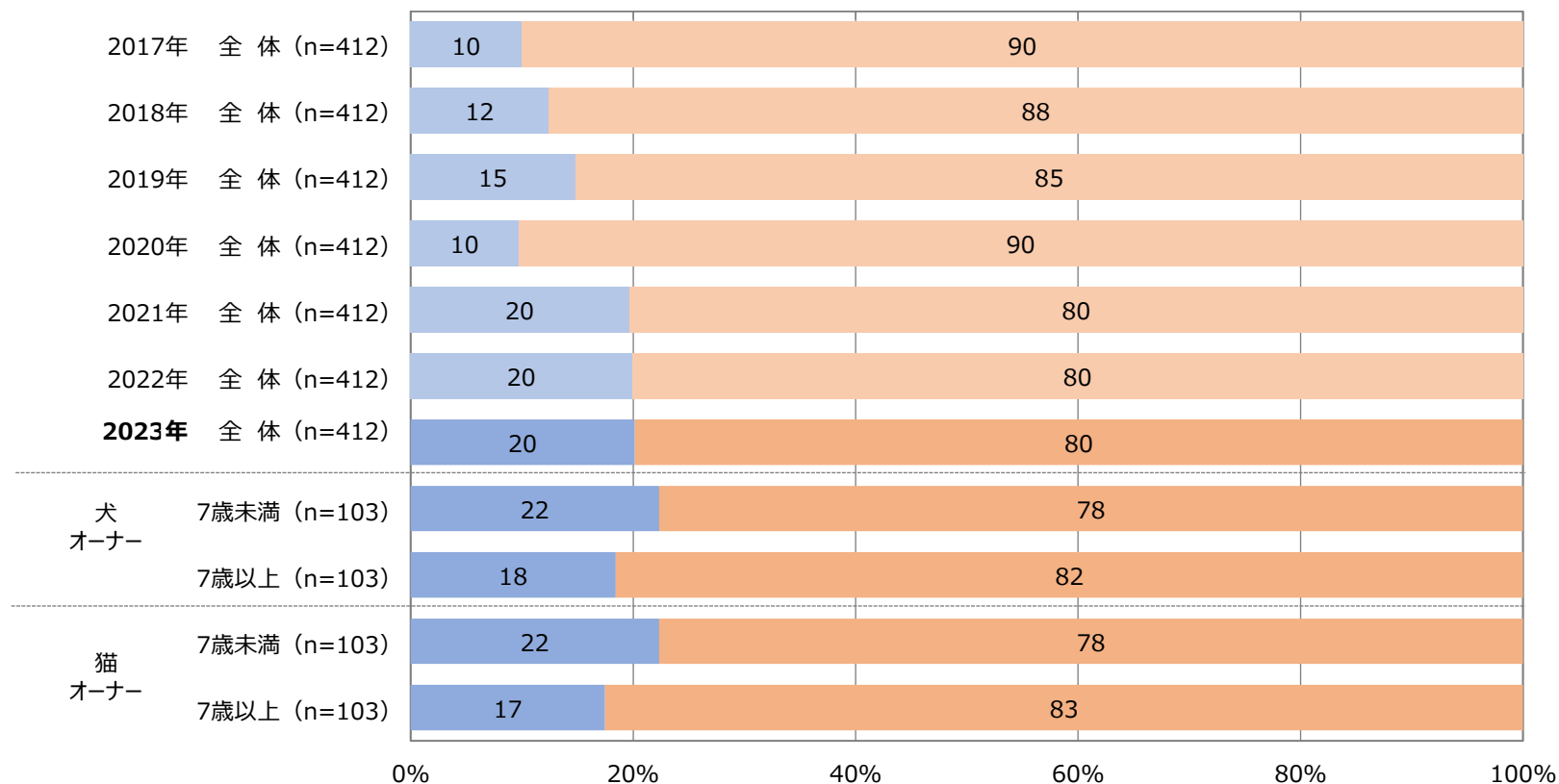
- Team Hopeのロゴマークを「見たことがある」は20%で、ここ3年間同率。
- オーナー別でみると、犬猫ともに7歳未満のほうが認知率が高い。

■ ロゴマークの認知 (Q27・SA)

Q27 あなたはこのロゴマークを見たことがありますか？



■ 見たことがある ■ 見たことはない



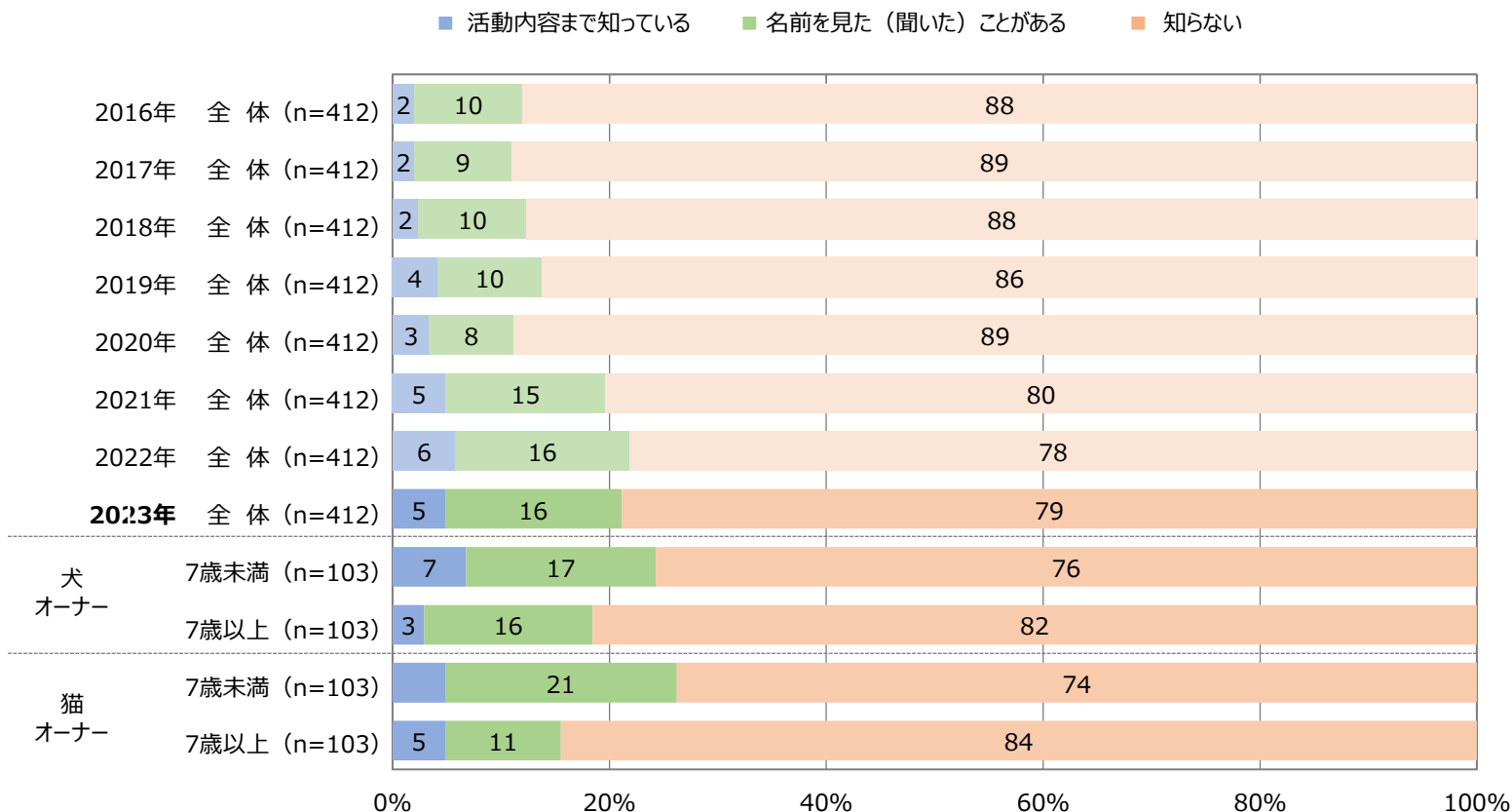
7. 「Team HOPE」について (2) 団体認知



- 「Team HOPE」について、「活動内容まで知っている」は5%、「名前を見た（聞いた）ことがある」は16%。合わせると認知率は21%。
- 時系列でみると、認知率は昨年までは徐々に増加していたが、今年は「活動内容まで知っている」が微減。
- オーナー別でみると、犬猫ともに7歳未満のほうが認知率が高い。

■ ペットの健康寿命を延ばす活動をしている、獣医師の団体「Team HOPE（チームホープ）」の認知（Q28・SA）

Q28 あなたは、ペットの健康寿命を延ばす活動をしている、獣医師の団体「Team HOPE（チームホープ）」を知っていますか。



8. ペットに関する情報源



- ペットに関する情報源全般としては、全体MAでは「動物病院」53%が最も多く、次いで「ペットを飼っている友人・知人から」33%、「TV番組」27%が続く。SAでもTOP3は共通。
- オーナー別にみても情報源上位は変わらないが、犬猫ともに7歳未満では「YouTube」も多い。

■ ペットについての情報源 全般/最も多く情報入手 (Q29・MA/Q30・SA)

■ 情報源全般MA ■ 最も多く情報入手SA
(n数は、「特になし」以外の人)

Q29 あなたはペットについての情報を得る際に、どこからその情報を入手しますか。

Q30 前問でお答えのものの中で、最も情報を多く入手するのはどこからですか。1つだけお答えください。

○全体より10%以上多い

